

綾町埋蔵文化財調査報告書第12集

O B I R A D A N I D A I I C H I

# 小平谷第1遺跡

県営中山間総合整備事業古屋・二反野地区(その2)にかかる  
埋蔵文化財調査報告書

2007.11

宮崎県綾町教育委員会



卷頭図版 小平谷第1遺跡遠景

## 序 文

綾町教育委員会では、中山間総合整備事業に伴い平成17年度中部農林振興局の委託を受け、小平谷第1遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、小平谷第1遺跡では縄文時代早期の土器や石器、集石遺構などや古墳時代の住居跡が3基発見されました。また、町内では一番古いものと考えられる縄文時代草創期の爪形文の土器も出土しています。このような発見は、今も昔も変わらず照葉樹林の恩恵に預かりながら生活してきた綾の人々の生活を垣間見る歴史的資料になっていくものだと考えます。

今後も開発と文化財の保護との調整を図り、綾町の歴史をひも解くような発見がなされるよう努力していきたいと思います。なお、本書が文化財の保護への理解に役立つとともに、生涯学習・学校教育等の場で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査に多大なるご協力いただいた諸関係機関や町民の方々に厚くお礼申しあげます。

平成19年11月

綾町教育委員会

教育長 玉田 清人

## 例　　言

1. 本書は、県営中山間総合整備事業に伴い、綾町教育委員会が中部農林振興局から委託を受け、平成17年度に実施した「小平谷第1遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 現地調査における実測図作成は、有限会社ジパングサーベイに委託した。
3. 本書に使用した写真は井上が撮影をおこない、空中写真については（有）スカイサーベイ九州に委託した。
4. 遺物の整理及び実測等は、岩崎和枝、緒方悦子、末永美智子、福田美香（整理作業員）谷口恵（別府大学学生）らの協力を得て、井上がおこなった。
5. 石器実測及びトレースについては、（株）埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
6. 本書で用いた方位は磁北、レベルについては海拔絶対高である。
7. 本書で用いた記号は以下のとおりである。  
SA: 住居址、SI: 集石、SR: 炉穴、SC: 土坑、落とし穴
8. 本書で用いた土色は、『新版 標準土色帖（2001年版）』によるものである。
9. 調査及び本書の作成にあたっては以下の方々から貴重なご指導とご助言をいただいた（五十音順・敬称略）。  
赤崎広志、秋成雅博、井田篤、稻岡洋道、金丸武司、菅付和樹、島田正浩、谷口武範、津曲大祐、日高広人、藤木聰、藤木晶子、松本茂、松元一浩
10. 本書の執筆及び編集は、井上がおこなった。
11. 調査の記録類、出土遺物などは全て綾町教育委員会で保管している。

# 目 次

## 本文目次

### 第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と調査組織	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査組織	1
第2節 遺跡の環境	1
1. 地形的環境	1
2. 歴史的環境	2

### 第Ⅱ章 各時代の遺構と遺物

第1節 調査の概要と基本土層	5
1. 調査の概要	5
2. 基本土層	5
第2節 アカホヤ火山灰降下層以下の調査	6
1. 旧石器の遺物	6
2. 縄文時代の遺構と出土遺物について	6
①集石遺構	6
②土坑	7
③炉穴	7
④落とし穴状遺構	12
3. 包含層の出土遺物	13
①草創期の土器	13
②草創期以降の土器	13
③石器	24
第3節 古代の調査	28
1. 古墳時代の遺構と出土遺物について	28

### 第Ⅲ章 まとめ

まとめ	36
調査抄録	49

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図	3	第13図 繩文時代遺物包含層出土土器実測図④	17
第2図 遺跡周辺地形図	4	第14図 繩文時代遺物包含層出土土器実測図⑤	18
第3図 基本土層図	5	第15図 繩文時代遺物包含層出土土器実測図⑥	19
第4図 旧石器時代石器実測図	6	第16図 繩文時代遺物包含層出土土器実測図⑦	20
第5図 繩文時代遺構配置図	8	第17図 繩文時代遺物包含層出土石器実測図①	25
第6図 集石遺構実測図①及び出土遺物実測図	9	第18図 繩文時代遺物包含層出土石器実測図②	26
第7図 集石遺構実測図②及び出土遺物実測図	10	第19図 古墳時代以降遺構配置図	29
第8図 土坑・炉穴実測図及び出土遺物実測図	11	第20図 1号竪穴住居跡実測図及び出土遺物実測図	30
第9図 落とし穴状遺構実測図	12	第21図 2号竪穴住居跡実測図及び出土遺物実測図①	31
第10図 繩文時代遺物包含層出土土器実測図①	13	第22図 2号竪穴住居跡出土遺物実測図②	32
第11図 繩文時代遺物包含層出土土器実測図②	15	第23図 3号竪穴住居跡実測図及び出土遺物実測図	33
第12図 繩文時代遺物包含層出土土器実測図③	16		

## 表目次

表1 集石遺構観察表	12	表5 石器観察表	27
表2 繩文時代出土土器観察表①	21	表6 竪穴住居内出土土器観察表①	34
表3 繩文時代出土土器観察表②	22	表7 竪穴住居内出土土器観察表②	35
表4 繩文時代出土土器観察表③	23		

## 図版目次

卷頭図版 小平谷第1遺跡遠景（巻頭カラー）		図版14 土器出土状況（炉穴）	42
図版1 小平谷第1遺跡基本土層	5	図版15 土器出土状況（包含層）	42
図版2 小平谷第1遺跡全景（上空から）	38	図版16 水晶製品出土状況（包含層）	42
図版3 調査地近景	38	図版17 繩文時代遺構内出土土器	43
図版4 1号集石遺構	38	図版18 繩文時代遺物包含層出土土器①	43
図版5 2号集石遺構	39	図版19 繩文時代遺物包含層出土土器②	44
図版6 7号集石遺構	39	図版20 繩文時代遺物包含層出土土器③	45
図版7 7号集石遺構底石	39	図版21 繩文時代遺物包含層出土土器④	46
図版8 土坑完掘状況	40	図版22 繩文時代遺物包含層出土石器①	46
図版9 炉穴完掘状況	40	図版23 繩文時代遺物包含層出土石器②	47
図版10 落とし穴状遺構完掘状況	40	図版24 住居跡出土石器	47
図版11 2号竪穴住居跡完掘状況	41	図版25 1号竪穴住居跡出土土器	47
図版12 3号竪穴住居跡完掘状況	41	図版26 2号竪穴住居跡出土土器	48
図版13 2号竪穴住居跡出土装飾品	41	図版27 3号竪穴住居跡出土土器	48

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯と調査組織

### 1. 調査に至る経緯

平成13年度からおこなわれている、綾町古屋・二反野地区の県當中山間総合整備事業に伴い、平成17年3月に宮崎県教育庁文化財課が試掘調査をおこなったところ、事業地の一部に埋蔵文化財の所在が確認された。この試掘結果をうけて文化財課・綾町教育委員会・中部農林振興局・綾町役場農林振興課の4者で遺跡の取り扱いについて協議をおこなったところ、事業設計上やむを得ず削平される部分においては発掘調査を実施して記録保存の処置を行なうことになった。

調査は中部農林振興局の委託を受け、平成17年8月19日～同年12月22日までの日程にて綾町教育委員会が調査主体となり実施した。同遺跡の調査面積は約2,790m<sup>2</sup>に至った。

### 2. 調査組織

調査の組織は、次のとおりである。

調査主体 綾町教育委員会

発掘調査

<平成17年度>

事務局

教育長

社会教育課課長

社会教育課係長

調査員

社会教育課主事

整理作業

<平成18年度>

事務局

教育長

社会教育課課長

社会教育課係長

調査員

社会教育課主事

玉田 清人

松本 淳資

藤本 匡史

井上 隆広

## 第2節 遺跡の環境

### 1. 地形的環境

綾町の地形は大きく見ると、東と北隣は国富町の段丘地形及び山岳稜線で境されている。南は宮崎市高岡町と接し、標高200mの丘陵地形が広がる。西は小林市と山岳の稜線で接している。町の80%は山林が占め、綾北川・南川に囲まれた地域には段丘地形と扇状地が広がっている。一方地質を見ると、山岳地形を構成するのは古第三紀の日向層群(四万十累層群)である。この地層は砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層からなり、NE-SW方向の走向を示している。段丘地形を構成するものは新第三紀中新世の宮崎層群である。この地層は基底礫岩から始まり、砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層から成る。宮崎層群の地層は、日向層群に比べて固結度が弱いため侵食されやすく、そのため平坦な段丘地形がよく発達している。宮崎層群は日向層群を傾斜不整合に覆い、砂岩層には貝の化石を多く含んでおり、町内の至るところで貝の化石が発見されている。二反野の丘陵には、高位段丘礫層が堆積している。錦原付近の段丘は、中位段丘礫層から成る。概ね町内の地表付近にはアワオコシ、小林軽石、アカホ

ヤなどのテフラが層をなして降下堆積している。

## 2. 歴史的環境

町面積の80%を森林が占める綾町は、大淀川水系の綾南川・綾北川の合流点の扇状地に位置しており、集落は平坦地にある中心地区と、その周辺丘陵地及び山間高台地に点在している。綾町の遺跡は、現在のところ平成7・8年度の詳細分布調査で約60箇所が確認されており、それらの遺跡のほとんどは、町中央部を流れている綾南川の南岸、綾北川の北岸、そしてその両河川に挟まれた中間丘陵地に分布している。

旧石器時代の遺跡は、現在のところ見つかっていない。

縄文時代の遺跡は、平坦地には見られず、そのほとんどが丘陵地に分布している。縄文時代の表採資料としては、早期、後期のものが多く見つかっている。特に県内の縄文後期の代表的な遺跡として尾立遺跡が挙げられている。

弥生時代の遺跡は現在見つかっていない。しかしその時期の土器は町内各地で表採されている。

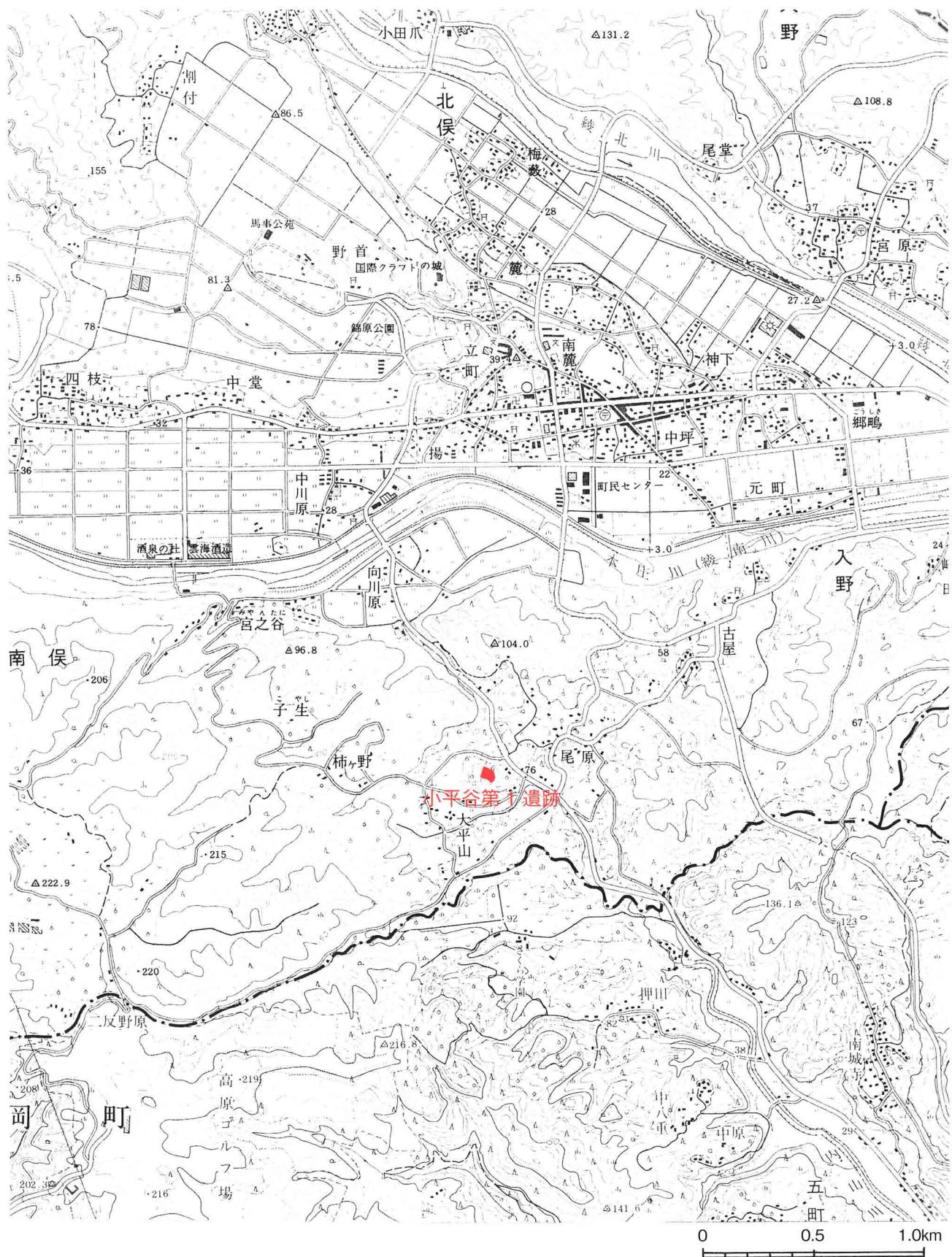
古墳時代の遺跡は、宮原台地や錦原台地にその存在が確認されている。特に宮原地区では県の文化財に指定されている綾町古墳が3基所在している。また、四反田古墳の付近では地下式横穴墓が発見されている。一方、錦原台地には古墳1基が所在している。その付近の内屋敷遺跡では、地下式横穴墓が1基発見され、県の文化課によって調査がなされている。また、尾立遺跡の附近の中迫遺跡にも、3基の地下式横穴が見つかっている。平成14年度調査のおこなわれた椎屋遺跡では、出土遺物等から判断して古墳時代の前期と考えられる焼失住居跡やほぼ完形の土器なども出土している。

古代の遺跡については調査がなされていないが、文献等によると「亜榔駅」の存在が予想される。近年、町中心部の試掘調査によって土師質の土器が出土しており、その時期の遺跡の存在を予感させている。

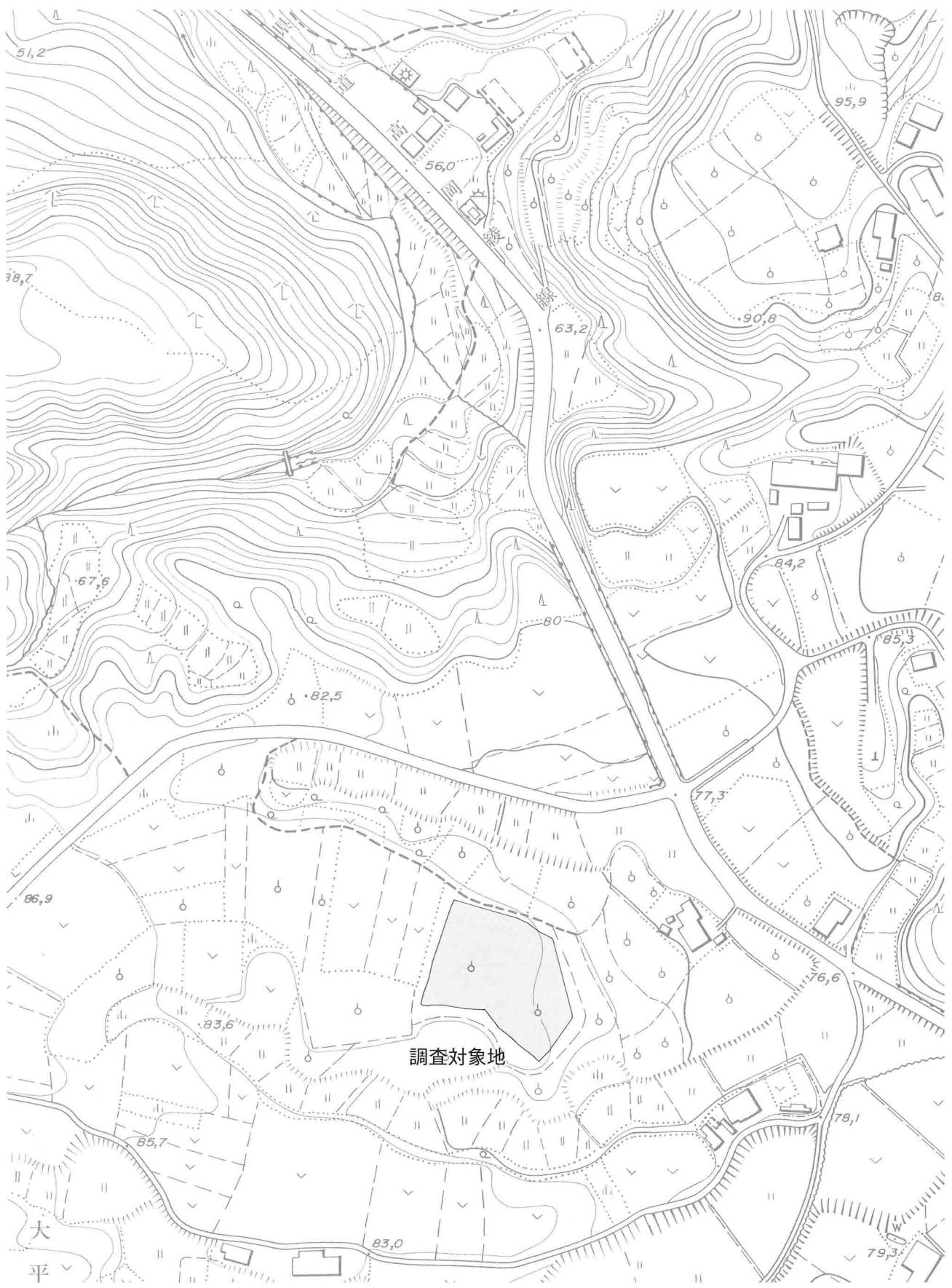
中世の遺跡については、綾城を始め、山城として垂水城跡、そのほかの城跡として肥田木城、内屋敷城などが残っている。特に垂水城、内屋敷城については、現在でも堀や土塁が良好に残っている。

### 【引用参考文献】

- 綾町 1979 『綾町郷土誌』
- 綾町教育委員会 1995 『中迫地下式横穴墓群』
- 綾町教育委員会 2005 「椎屋遺跡」『綾町埋蔵文化財調査報告書』第8集
- 石川 恒太郎 1969 「東諸県郡綾町地下式古墳調査報告」『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』  
第13集 宮崎県教育委員会
- 面高 哲郎 1996 「内屋敷地下式横穴群」『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県
- 日高 孝治 1993 「四反田地下式横穴」『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県



第1図 遺跡位置図 (1/25,000)



第2図 遺跡周辺地形図 (1/2,500)

## 第Ⅱ章 各時代の遺構と遺物

### 第1節 調査の概要と基本土層

#### 1. 調査の概要

本遺跡は、町中心部を流れる綾南川の南岸標高約85mの台地上に位置する。調査前は起伏のない平坦な畑であった。調査にあたっては、耕作によりアカホヤ層の残存がよくなかったため、重機による表土掘削の後、人力によりアカホヤ層直下の黒褐色層にて遺構検出をおこなった。9月初旬には台風による天候不順などが続き、期間内の終了を考慮した上で比較的の遺物が多量に出土している台地上の東先端部分のみ小林軽石層までの全面掘削を行い、調査地西側についてはトレーンチ掘りによる遺構確認をおこなった。

#### 2. 基本土層

本遺跡における層序は、I～VI層まで分別できた。詳細については以下のとおりである。

I層：黒褐色土層 (10YR 2／3)

表土及び耕作土。

II a層：褐色土層 (7.5YR 4／6)

二次アカ。さらさらしており粘性なし。

II b層：明褐色土層 (7.5YR 5／8)

アカホヤ。下部に $\phi$ 5mm～1mmほどの豆石を多量に含む。さらさらしているが、若干しまり及び粘性あり。

III層：黒褐色土層 (10YR 2／2)

クロニガ。非常に硬質で粘性あり。若干炭化物と微細な白色粒を含む。

IV層：暗褐色土層 (10YR 3／4)

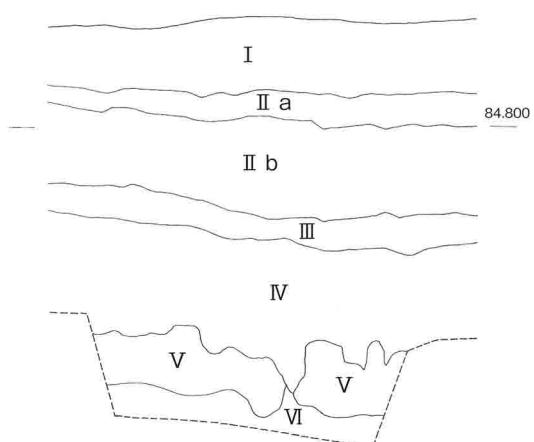
非常に硬質でしまりがあり、粘性あり。微細な白色粒を多く含む。下部は褐色土 (10YR4/4) をマーブル状に含む。

V層：にぶい黄褐色土層 (10YR 4／3)

小林ボラ。非常に硬質でしまり粘性あり。白色粒を非常に多く含む。 $\phi$ 5mmほどの軽石 (明褐色・褐灰色) を若干含む。

VI層：褐色土層 (10YR 4／4)

粘性があり若干しまりもあり。 $\phi$ 1cm～2mmほどの明赤褐色粒を含み、また白色粒を若干含む。



第3図 基本土層図 (S = 1/30)

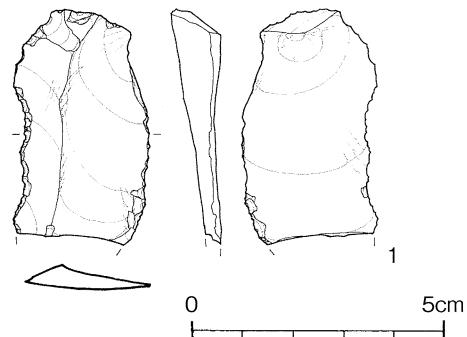


図版1 小平谷第1遺跡基本土層

## 第2節 アカホヤ火山灰降下層以下の調査

### 1. 旧石器時代の遺物

本遺跡では、旧石器時代の遺構は検出されていないが1点だけ旧石器のものと見られる石器が、調査区西側のE 4 区トレーニング内の中層直上より出土している。流紋岩製のスクレイパーで微細剥離により両側縁に刃部を作り出している。



第4図 旧石器時代石器実測図 (S = 2/3)

### 2. 繩文時代の遺構と出土遺物について

#### ① 集石遺構

調査区内から7基の集石遺構が検出された。それらをその構造の特徴から2種類（A 1類：掘り込み・底石有タイプ、A 2類：掘り込み有・底石無タイプ）に分類した。

#### 【1号集石（第6図）】

I 9区の北西部にて検出された。プランは1 m × 0.6m の範囲内に5～10cm の砂岩主体の角・亜角礫が集まり構成している。角礫は比較的偏平な礫で構成されているという印象が強い。また、礫を取り除くと、長軸0.9m、短軸0.5m、深さ0.1mの北西方向に細長い橢円形を呈する掘り込みが確認できた。埋土については、軟質の茶褐色土である。なお、この集石はV層のほぼ直上にて検出されており、遺跡で検出した集石の中でも古いタイプの可能性が考えられる。集石と重なり合って割れ口にススの付着した橢円形押型文の土器（2）が出土している（A 2類）。

#### 【2号集石（第6図）】

H 4区の北西部にて検出された。プラン全体は3 m × 1.9m の範囲にわたるが、中心となる本体部分は2 m × 1.9m の範囲内に5～20cm 大の凝灰岩の角・亜角礫が極密に集まり構成している。下部には底石を持ち、被熱痕がある15～30cm 大の角・亜角礫14個で構成されている。また、長軸2 m、短軸1.7m、深さ0.7mの東西に長い橢円形を呈し、一方に段を持つ掘り込みが確認できた。埋土については、上位が硬質の暗褐色土で、下位は軟質の黒褐色土であった（A 1類）。

#### 【3号集石（第6図）】

I 7区北側にて検出された。プランは1 m × 0.7m の範囲内に5～15cm 大の凝灰岩の角・亜角礫が集まり構成している。また、この礫の中には著しく被熱痕があるものも数点確認できた。礫を取り除くと、長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.1m ほどの橢円形を呈する掘り込みが確認できた。埋土については、少量の炭化物粒を含む軟質の暗褐色土であった（A 2類）。

#### 【4号集石（第6図）】

H 7区のほぼ中心にて検出された。プランは1 m × 0.9m の範囲内に5～15cm 大の角・亜角礫が凝灰岩・砂岩の半々の割合にて集まり構成されている。礫を取り除くと、長軸1 m、短軸0.8m、深さ0.15mの掘り込みが確認できた。埋土については、軟質の暗褐色土であった（A 2類）。

#### 【5号集石（第7図）】

I 8 区の南側にて S A 1 の貼床除去後に検出された。プランは  $0.9m \times 0.9m$  の範囲内に 5 ~ 15cm 大の凝灰岩・砂岩製の角・亜角礫が集まり構成されている。礫を取り除くと、 $0.9m \times 0.8m$ 、深さ 0.25m で円形を呈し南部に段を持つ掘り込みが確認できた。埋土については、やや硬質の暗褐色土で、下位はやや軟質の黒褐色土であった (A 2 類)。

#### 【6号集石 (第7図)】

G 7 区南側から H 7 区北側にかけて検出された。プランは  $1.8m \times 1.6m$  の範囲内に 5 ~ 10cm 大の凝灰岩・砂岩製の角・亜角礫が極密に集まり構成されている。下部には底石を持ち、被熱痕が著しい 12 ~ 24cm 大の偏平な礫 5 個で構成されている。礫を取り除くと、 $1.6m \times 1.5m$ 、深さ 0.65m の円形を呈し、断面がすり鉢状の掘り込みが確認できた。掘り込みは、V 層の下位 (硬質にぶい黄褐色土) まで達する。埋土については上位～下位にかけて、黒褐色埋土である (A 1 類)。

#### 【7号集石 (第7図)】

I 8 区のほぼ中央部に検出された。プランは  $1.9m \times 1.7m$  の範囲内に 3 ~ 10cm 前後の比較的小振りな凝灰岩の角・亜角礫が極密に集まり構成されており、中央が若干窪んだ状況が見受けられる。下部に底石を持ち、全体的に被熱痕を受けた 15 ~ 25cm の大型礫 5 個で構成されている。このうち数点は使用痕を持ち、石皿等の転用と考えられる。礫を取り除くと、 $1.9m \times 1.7m$ 、深さ 0.85m のやや歪な円形を呈し、断面がすり鉢状の掘り込みが確認できた。掘り込みは、6 号集石と同様に V 層の下位まで達する。埋土については、上位は暗褐色土である。中位から下位にかけては、炭化物粒が若干多く含む黒褐色土である。なお、底石は掘り込み床面には密着しておらず 10cm ほど浮いている。この空間は偏平な 5 cm 前後的小礫が混入した軟質の粘性のある暗褐色土で充填される。なお、集石内からは山形押型文土器 (3・4) が出土している (A 1 類)。

### ② 土坑

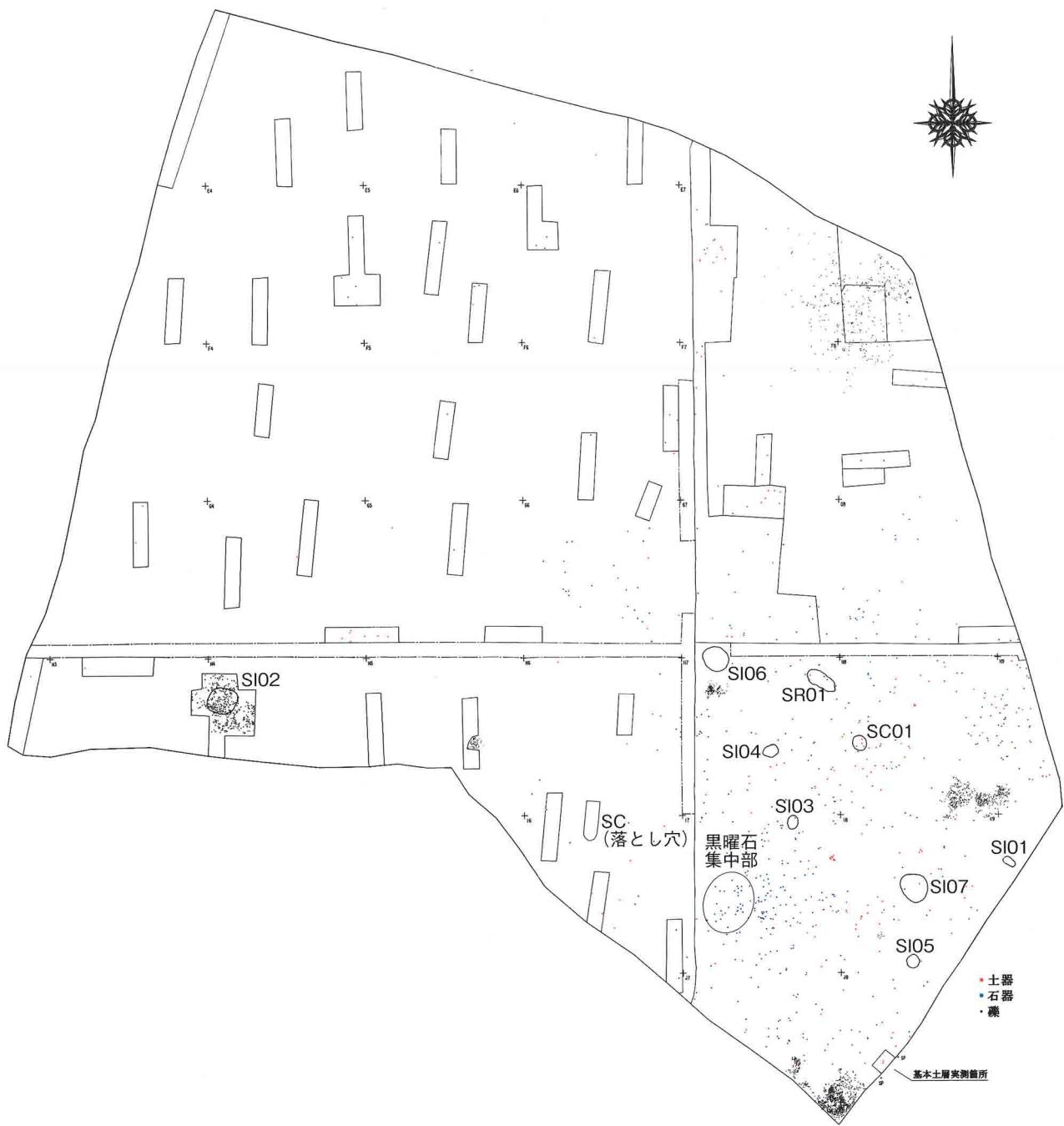
#### 【1号土坑 (第8図)】

I 8 区の北側において検出されている。平面プランは長軸約 1 m・短軸が約 0.85m の円形で、深さは約 0.25m であった。埋土については、硬質のしまりのある黒褐色土で、1 mm 前後の炭化物を少量、0.5mm 前後の白色パミスを含む。6 号集石や 1 号炉穴の埋土に似ている。また、埋土内から礫や山形押型文 (5~7)、貝殻条痕文 (8)、黒曜石が出土している。

### ③ 炉穴

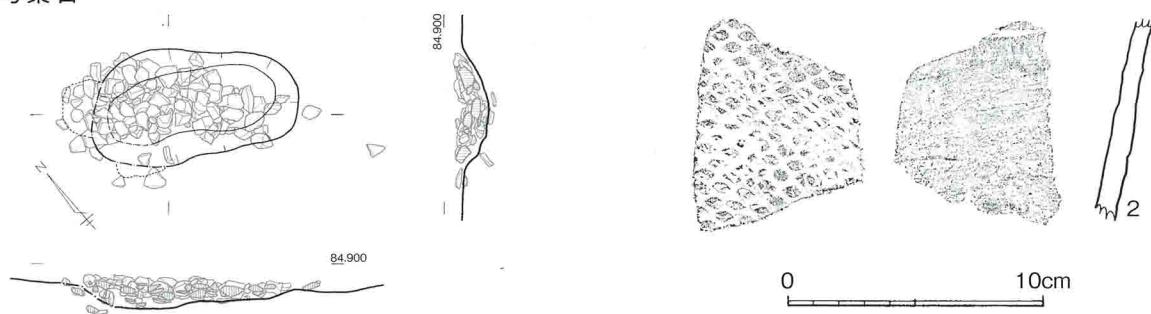
#### 【1号炉穴 (第8図)】

H 7 区において 1 基の炉穴が検出されている。平面プランは長軸約 2 m・短軸が約 0.8m の舟形でブリッジの確認は出来なかった。またプラン西側の両壁には焼土が確認された。埋土内からは横位の連珠文風櫛円押型文土器 (9) や山形押型文土器 (10・11)、菱形状の押型文土器 (12) が出土している。また、はっきりとした切り合いが見られなかったため遺構内の出土としているが外面及び口縁部内面にそれぞれ縦位・横位に撲り糸文を施文した土器 (13) も出土している。

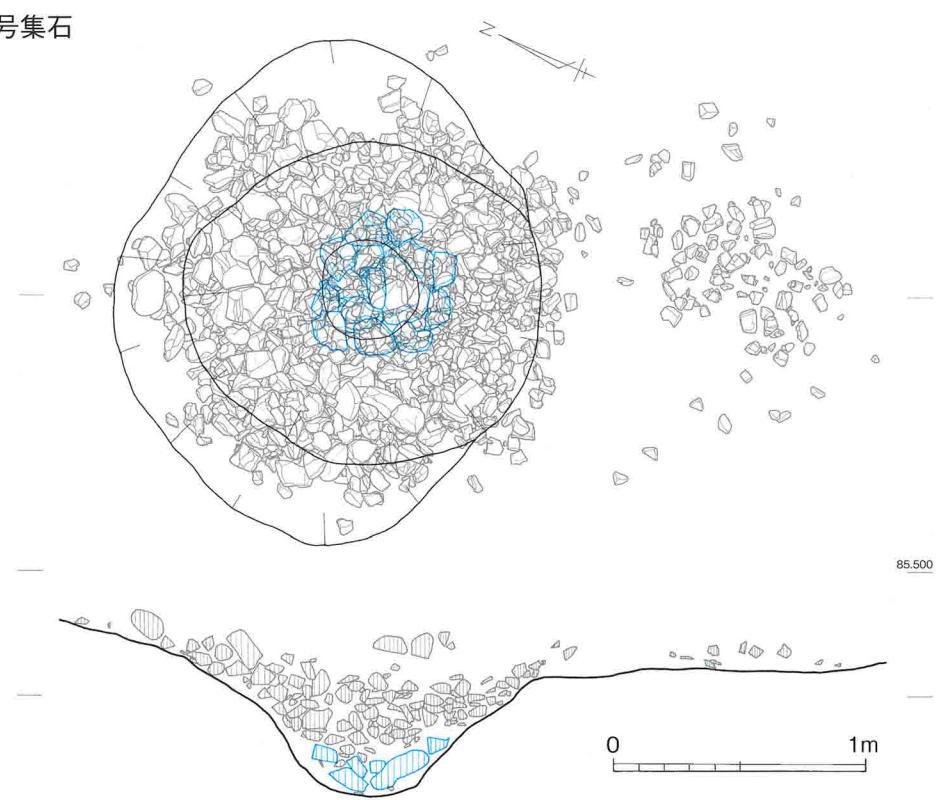


第5図 繩文時代遺構配置図 (S = 1/400)

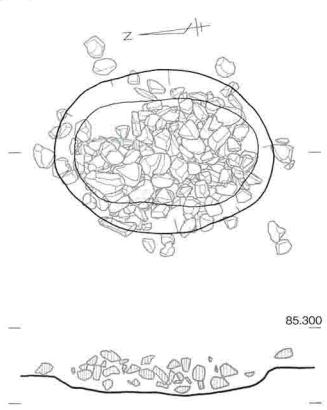
1号集石



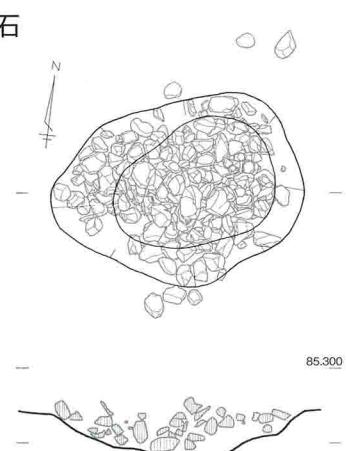
2号集石



3号集石

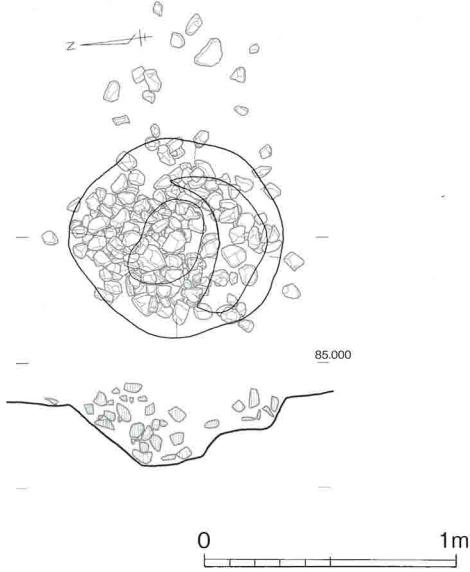


4号集石

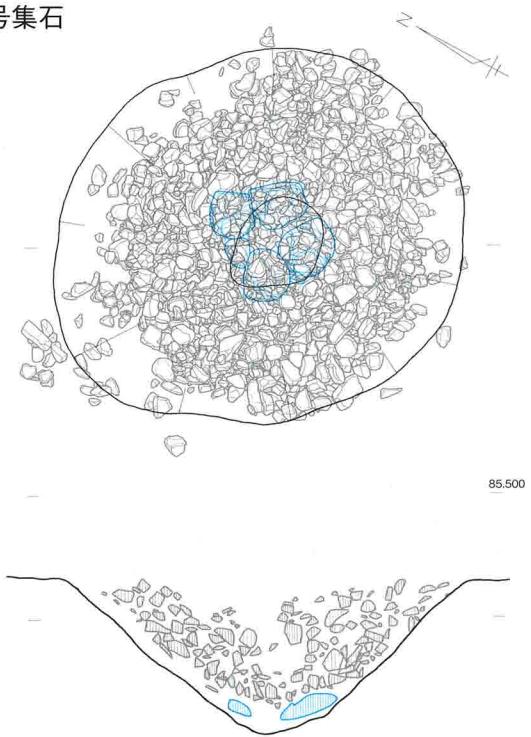


第6図 集石遺構実測図① (S = 1/30) 及び出土遺物実測図 (S = 1/3)

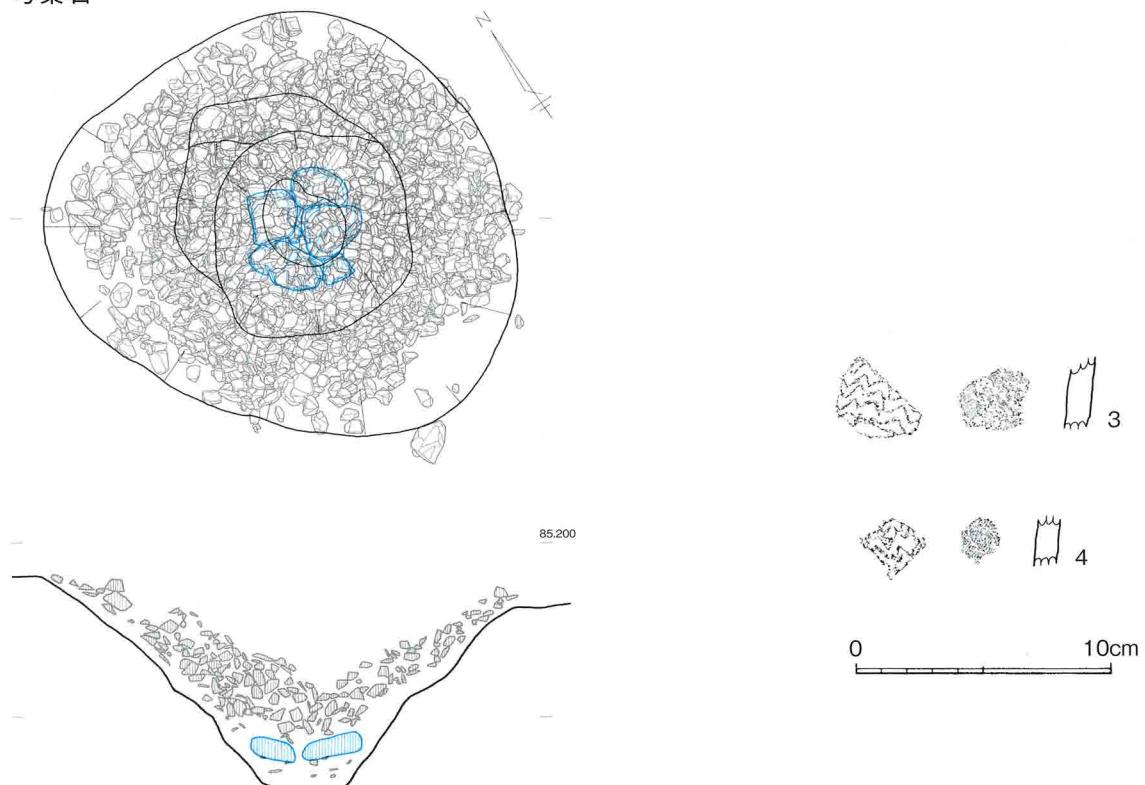
5号集石



6号集石

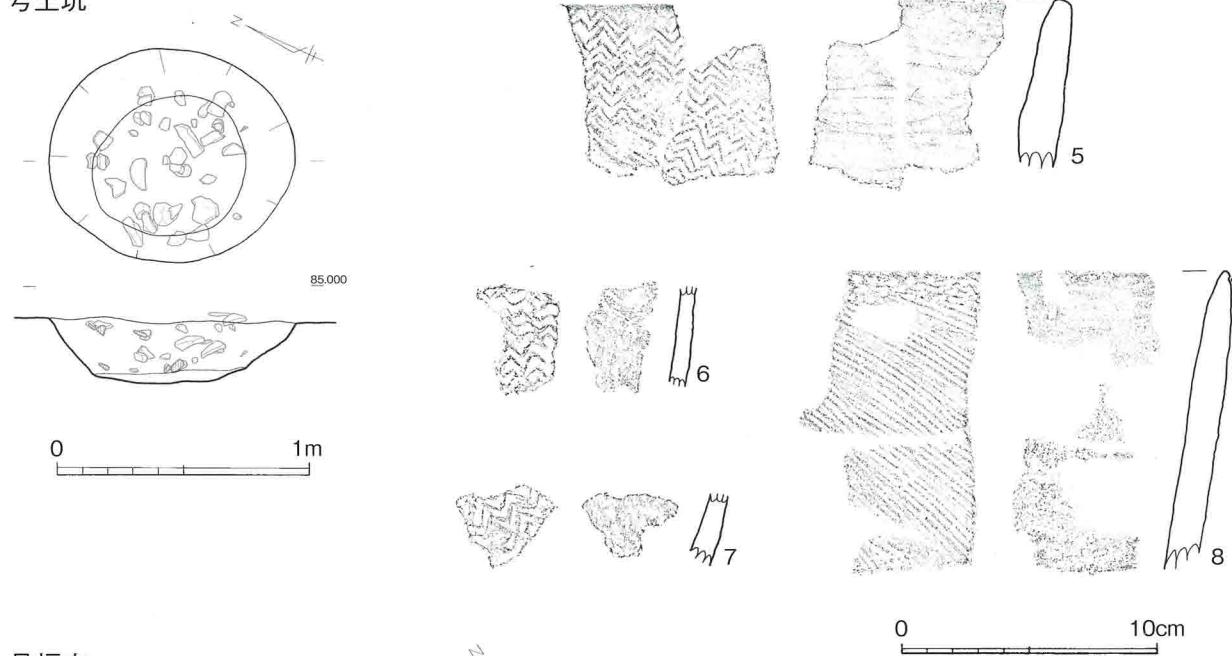


7号集石

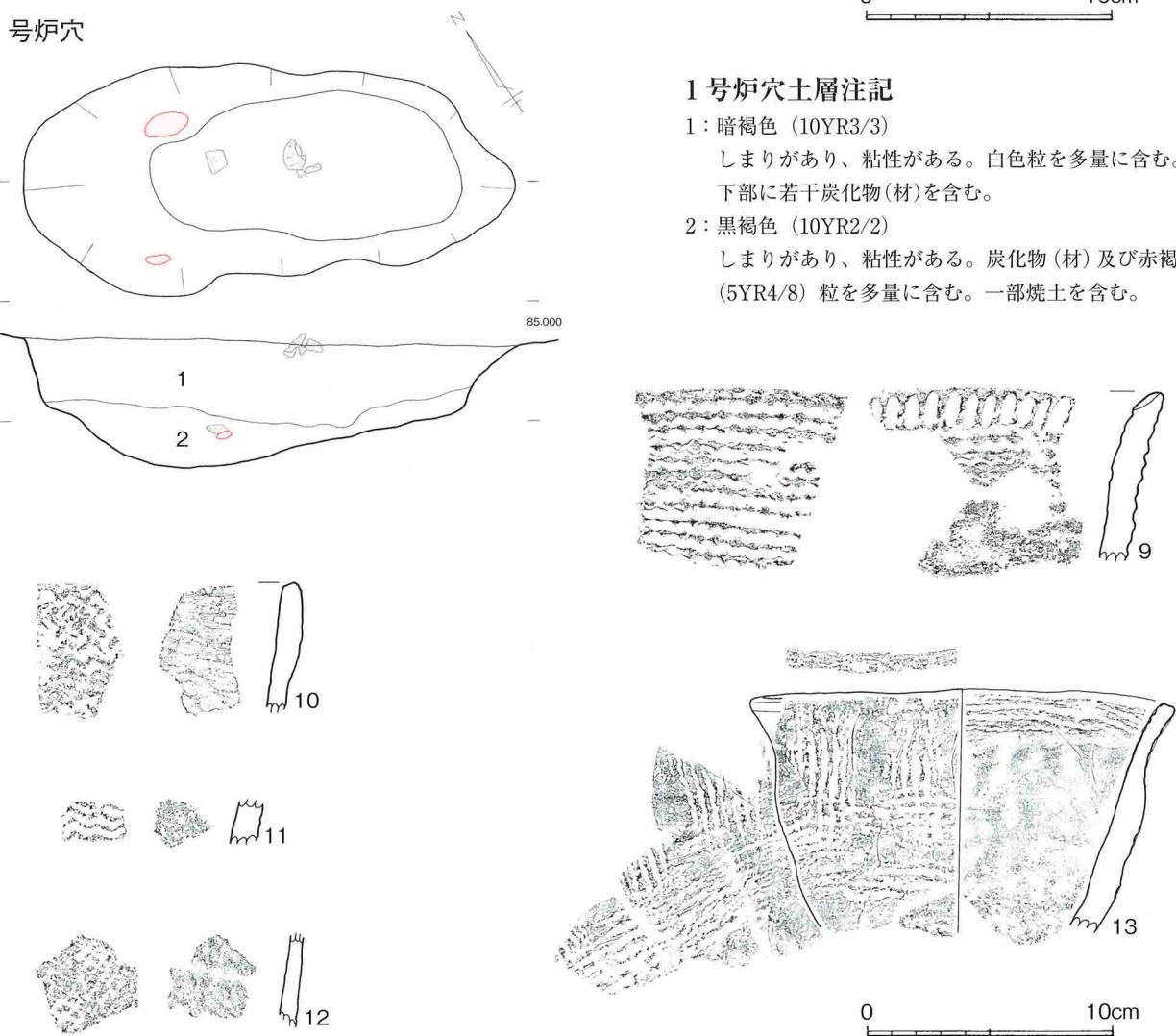


第7図 集石遺構実測図② (S = 1/30) 及び出土遺物実測図 (S = 1/3)

1号土坑



1号炉穴



### 1号炉穴土層注記

1: 暗褐色 (10YR3/3)

しまりがあり、粘性がある。白色粒を多量に含む。  
下部に若干炭化物(材)を含む。

2: 黒褐色 (10YR2/2)

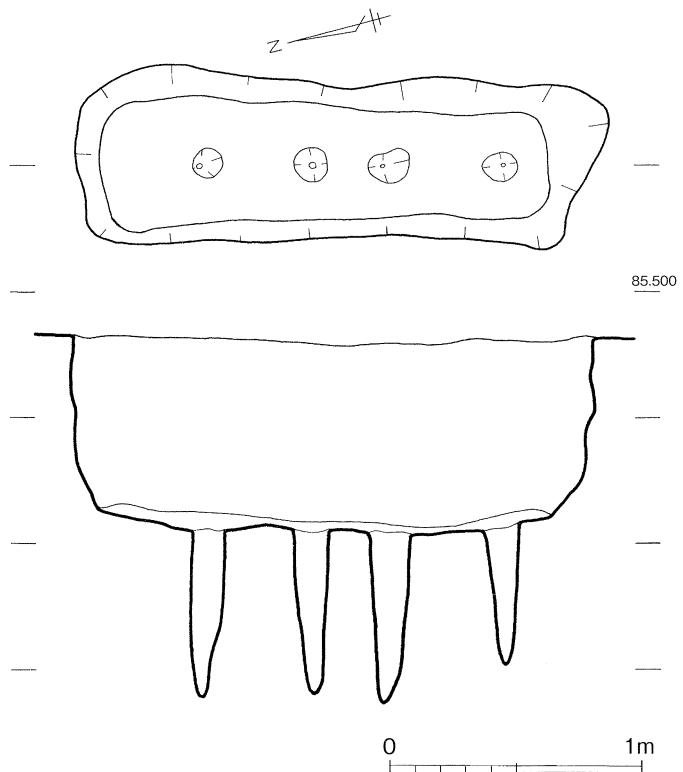
しまりがあり、粘性がある。炭化物(材)及び赤褐色  
(5YR4/8) 粒を多量に含む。一部焼土を含む。

第8図 土坑・炉穴実測図 ( $S = 1/30$ ) 及び出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

#### ④ 落とし穴状遺構

##### 【1号落とし穴状遺構（第9図）】

H6区からI6区にかけてのほぼ中央部にて検出されている。プランは、長軸約2m、短軸約0.7m、深さ約0.7mの隅丸長方形で深さ約0.6mの4本の逆茂木痕を持つ。埋土は上位からアカホヤのブロックを多量に含んだやや硬質の黒色土、下位はやや軟質の暗褐色土であった。出土遺物は見つかっていない。



第9図 落とし穴状遺構実測図 (S = 1/30)

表1 集石遺構観察表

No.	検出地点	礫範囲の直径(m)	総礫数(個)	掘込有無	上端直径(m)	掘込の深さ(m)	断面形態	礫分布状況	底石有無	炭化物の有無
1号	I9区	1.0	120	有	0.9	0.1	皿形	密	無	無
2号	H4区	2.0	1893	有	2.0	0.7	すり鉢	極密	有	有(少量)
3号	I7区	1.0	210	有	0.9	0.1	皿形	密	無	有(少量)
4号	H7区	1.0	230	有	1.0	0.15	皿形	密	無	有(少量)
5号	I8区	0.9	266	有	0.9	0.25	不定	密	無	有(少量)
6号	G7～H7区	1.8	1984	有	1.6	0.65	すり鉢	極密	有	有
7号	I8区	1.9	2940	有	1.9	0.85	すり鉢	極密	有	有(下部多)

### 3. 包含層の出土遺物

第Ⅲ層から第Ⅳ層にかけて、縄文時代草創期から縄文時代早期に位置付けられる土器が出土している。それらは、文様などにより分類が可能である。

#### ①草創期の土器（第10図14～19）

草創期に属すると見られる土器は、E7区のⅣ層に集中的に出土した。14・15は外面に多段の爪形文を施す。裏面は指オサエによる成形がなされる。器形の全容は破片での出土のため判らない。16～19は、無文の土器である。胎土などの特徴により14・15などと同一の個体である可能性が高い。

#### ②草創期以降の土器

草創期以降の土器については、以下のとおり分類した。

##### 【I類：前平式土器（第11図20～31）】

20は口縁直下に工具による2列の刺突文を持ち、その下に深い貝殻条痕を持つ。21は1列の刺突を持ち、口唇部はナデによる成形がなされ平坦部が設けられる。22～29については、深い貝殻条痕を持つ胴部である。同じく30・31は胴部であるが前者に比べ貝殻条痕が浅い。

##### 【II類：貝殻条痕を持つ土器（第11図32～39）】

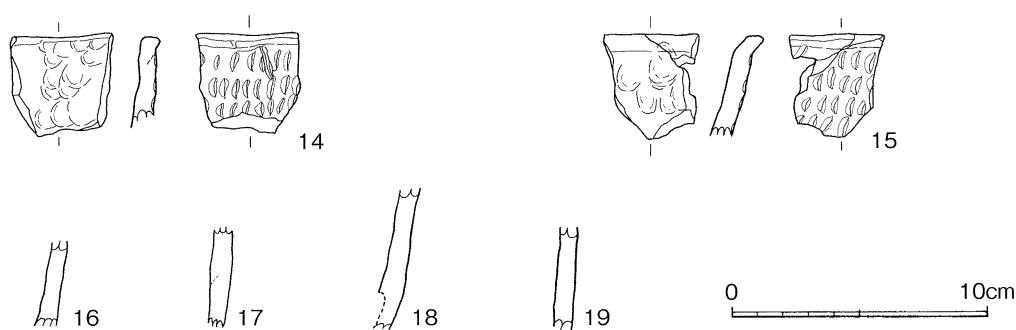
32～34は外面に浅い貝殻条痕文を持つ口縁部である。32は口唇部を舌状に成形されている。一方33については、口唇部をナデによる成形によって平坦部が設けられる。35～38は外面に浅い斜位の貝殻条痕文を持つ胴部である。内面はミガキによる調整が見られる。39は同じく浅い貝殻条痕文を持つが施文方向が斜位や横位にわたっている。内面は同じく貝殻条痕による調整が見られる。

##### 【III類：下剥峯式土器】

2種に分類が可能である。

##### III a類：貝殻復縁による刺突を持つもの（第12図40～45）

40～42は口縁部に横位の貝殻復縁による深い条痕文を持ち、その下段には横位の羽状の貝殻刺突文を持つ。口唇部はナデによる成形がなされており平坦面が設けられる。内面は指押さえによる成形がなされている。同じく43・44は胴部である。45は口縁直下に横位の貝殻復縁による2段の刺突がみられ、口唇部は丸くおさめられている。



第10図 縄文時代遺物包含層出土土器実測図① (S = 1/3)

### III b 類：櫛状の工具による羽状の刺突を持つもの（第 12 図 46 ~ 52）

46 ~ 52 は、櫛状の工具による羽状の刺突を持つ。内面はナデによる調整が見られる。

### 【IV 類：押型文土器】

3 種に分類が可能である

#### IV a : 山形押型文土器

##### IV a - 1 類：施文がはっきりした「山」形を呈するもの（第 13 図 53 ~ 62）

53 ~ 57 は口縁部である。53 は外面に斜位の山形の押型文と一部貝殻条痕を持つ。また、穿孔も見られる。内面と口唇部は指ナデによる調整である。54 の口縁部上段は横位の山形押型文、下段には斜位の山形押型文を持つ。口唇部は同じくナデによる成形である。58 ~ 61 は胴部である。62 は底部である。一部の残存のみであるため判断しづらいが、接地面は平底を呈するようである。

##### IV a - 2 類：施文が波打つような「山」型を呈するもの（第 13・14 図 63 ~ 78）

63 ~ 65 は口縁部付近である。63 の外面は縦位の波打つような山形の押型文を持つ。口唇部は平らに仕上げた後、横位の山形押型文が施文される。64・65 は外面及び内面の上段に横位の山形押型文が施文される。66 ~ 76 は胴部である。66 は穿孔を持つ。70 から 76 については、波打ち方が強い印象を受ける。77 は底部付近、78 は底部である。

#### IV b : 楕円形押型文

##### IV b - 1 類：楕円やひし形に近い形を呈するもの（第 14・15 図 79 ~ 92）

79 は口縁部である。外面は横位及び斜位の楕円押型文を持ち、内面は上段に縦位の原体条痕と下段に横位の楕円押型文を施文する。口唇部はナデによる成形で平坦面を設ける。80 ~ 84 は外面にそれぞれ斜位・横位の楕円押型文を持つ。85・86 は底部であり、平底を呈している。87 ~ 92 は同じく胴部であるが、楕円がはっきりしているとはいえない。87・88 については内面に横位の深い沈線を持つ。

##### IV b - 2 類：連珠文風の楕円を呈するもの（第 15 図 93・94）

93・94 は、外面に横位の連珠文風楕円押型文を持つ。

#### IV c : 格子目状押型文（第 15 図 95 ~ 101）

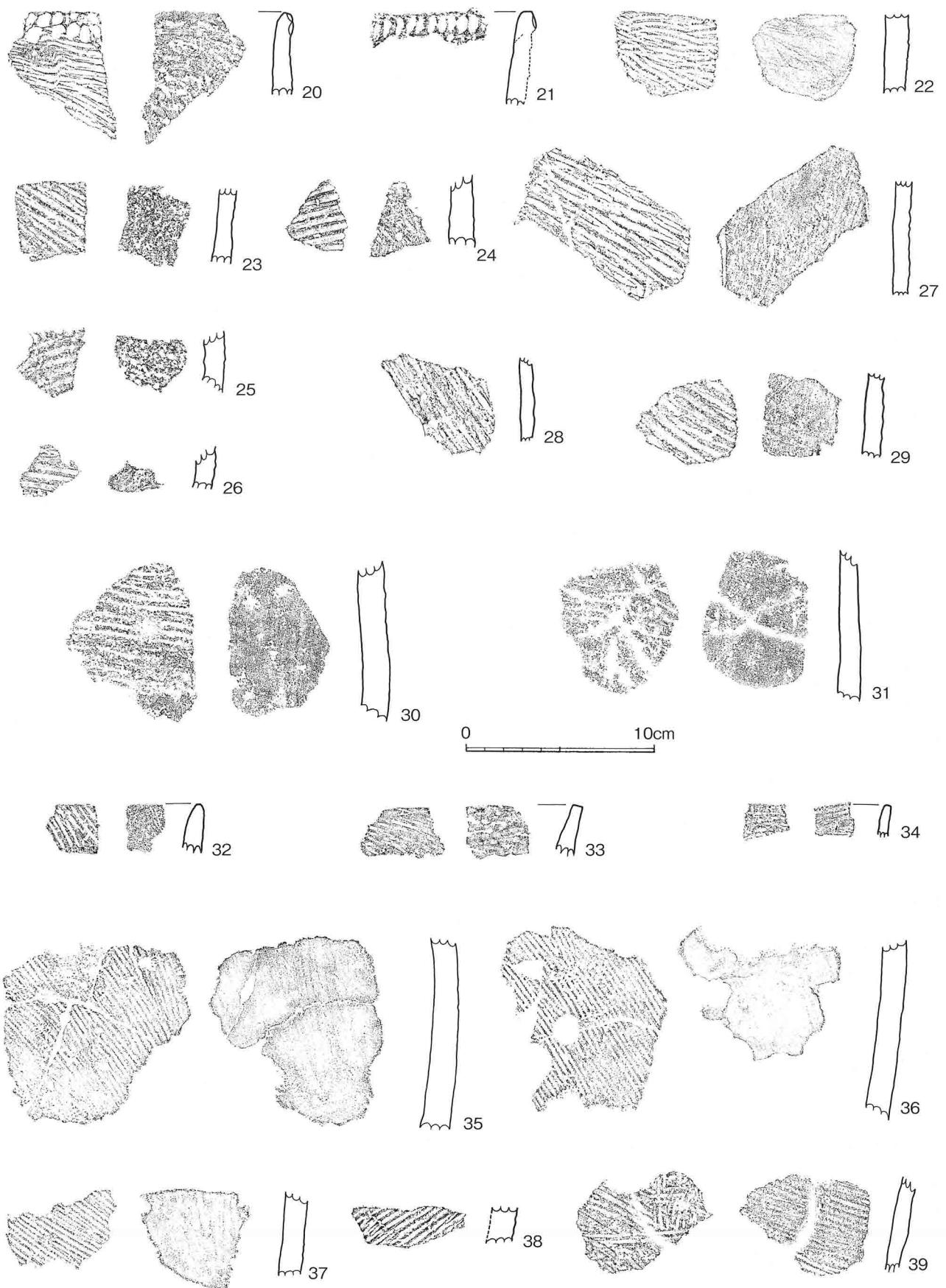
95 ~ 101 は格子目押型文を持つ土器である。外面には斜位の格子目押型文を施文しており、内面はナデによる調整が見られる。101 は底部である。外面に斜位の格子目押型文を持ち、接地面は平底を呈する。

### 【V 類：縄文・撚糸文系土器（第 16 図 102 ~ 104）】

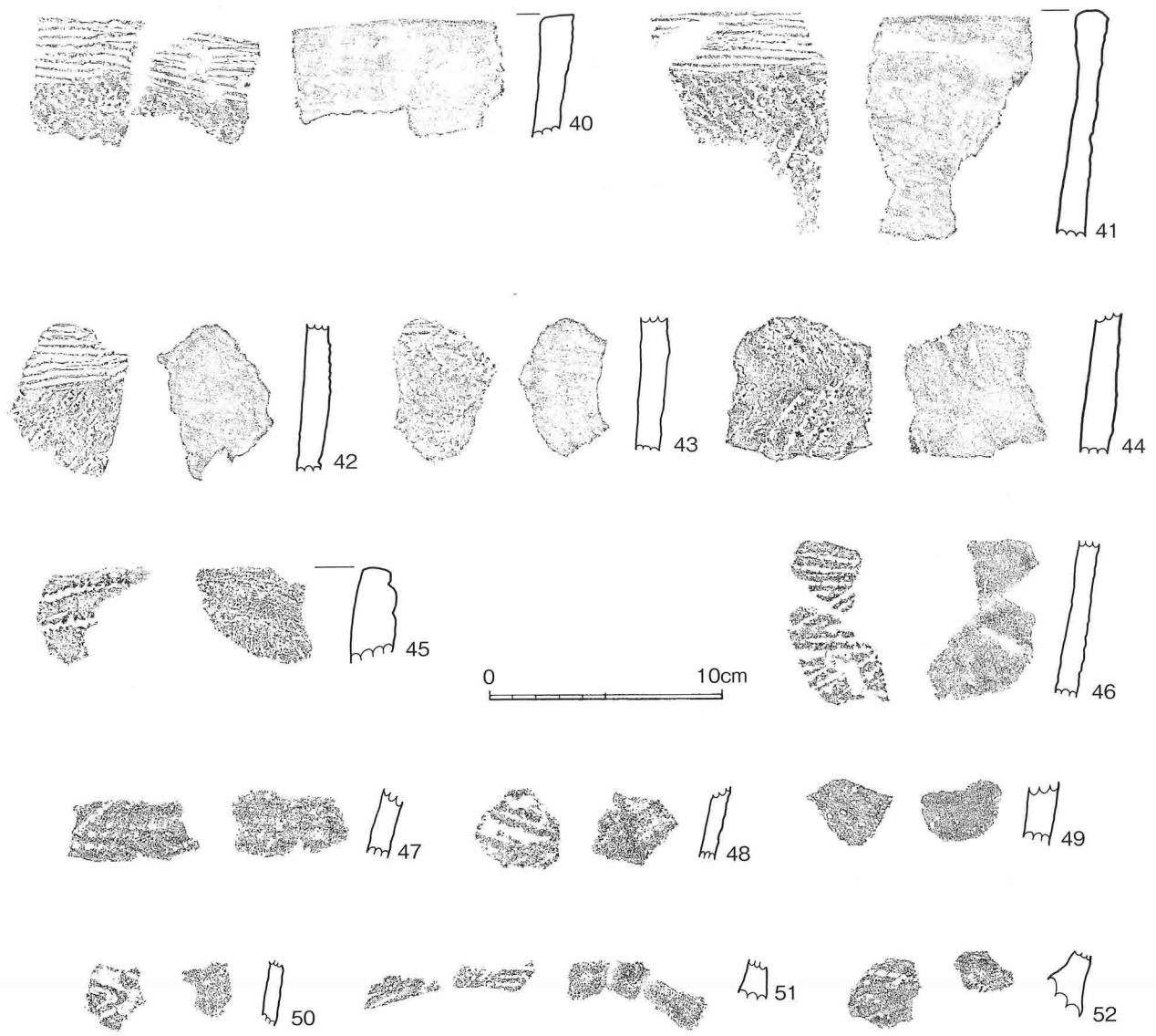
102 は斜位の縄文を施文する胴部である。103 は縦位の撚り糸文を施文している。内面の調整は剥離のため確認できない。104 は同じく撚り糸文である。横位の施文と一部縦位の撚り糸文で重なる部分も見られる。内面はナデによる調整が見られる。

### 【VI 類：条痕文（第 16 図 105 ~ 109）】

105 ~ 109 は外面に条痕文を持つ。105 は外面に横位の条痕文を持ち、口唇部はナデによる成形で平坦面を設ける。106 ~ 108 についても、それぞれ斜位・横位の条痕文を持ち、口唇部はナデによる成形がなされる。内面はミガキによる調整が見られる。109 は外面に横位の条痕を持つ。



第 11 図 縄文時代遺物包含層出土土器実測図② (S = 1/3)



第12図 縄文時代遺物包含層出土土器実測図③ (S = 1/3)

**【VII類：底部（第16図110～114）】**

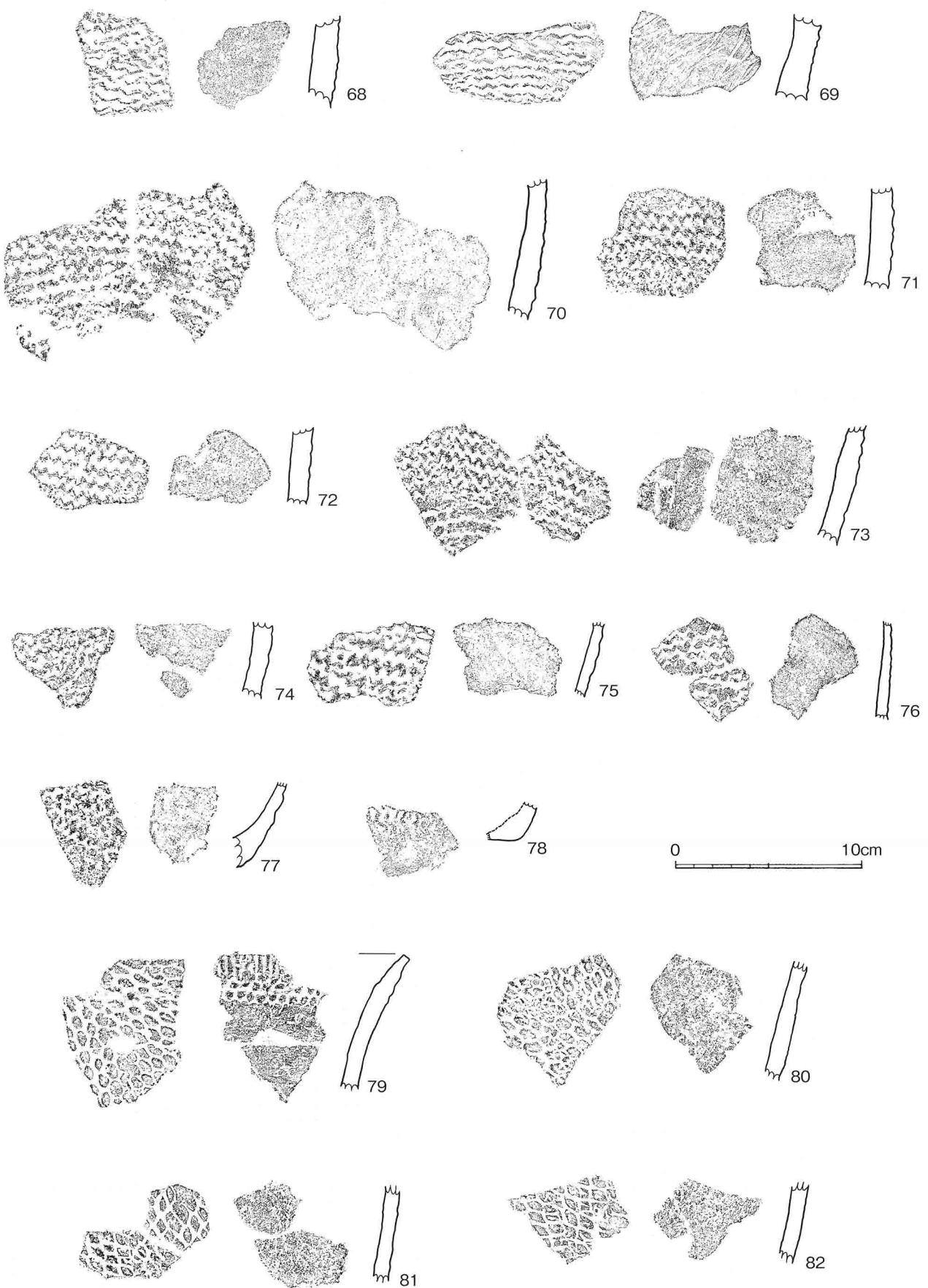
110は平底である。111は外面・内面ともにミガキによって器面調整されている。112の底面もミガキによる器面調整である。

**【VIII類：その他の土器（第16図115～118）】**

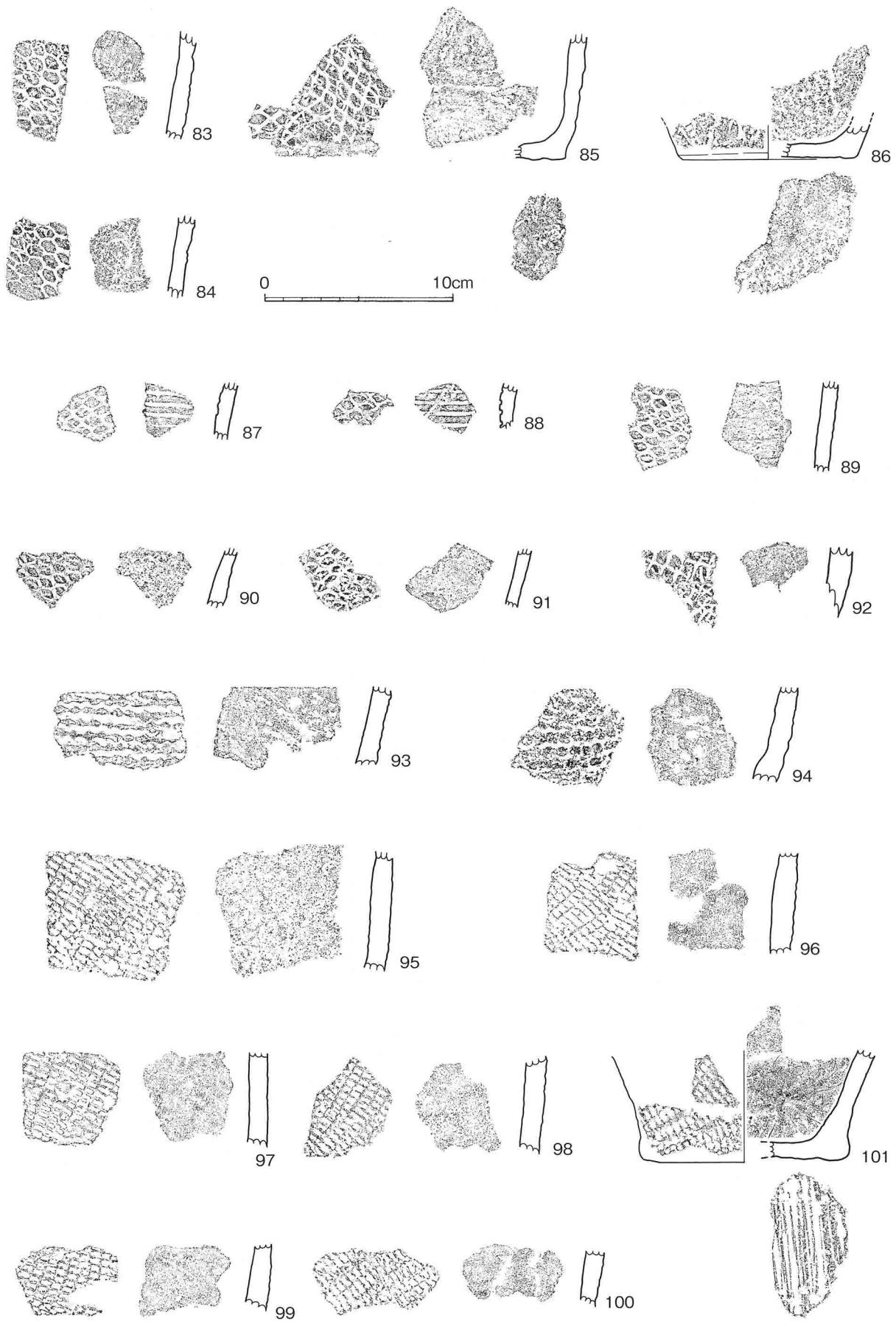
115は外面に鋭利な工具による沈線を持ち、また116は外面に4条のくし状工具による押し引き文を持つ。117は外面に多条の工具沈線を持つ。118は施文がほとんど見られずナデによる器面調整が見られるだけである。



第13図 縄文時代遺物包含層出土土器実測図④ (S = 1/3)



第14図 繩文時代遺物包含層出土土器実測図⑤ (S = 1/3)



第15図 繩文時代遺物包含層出土土器実測図⑥ (S = 1/3)



第16図 縄文時代遺物包含層出土土器実測図⑦ (S = 1/3)

表2 縄文時代出土土器観察表①

遺物番号	出土地区・層位	部位	文様及び調整		色調		胎土	備考
			外面	内面	外面	内面		
2	I9・SI01-1	胴部	横位の楕円押型文	横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	白・わ、岩・多、黒針・少	スス付着
3	I8・SI07-1	胴部	横位の山型押型文	ケズリ	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR5/3	透・多、岩・少	
4	I8・SI07	胴部	横位の山型押型文	ケズリ	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR5/3	透・多、岩・少	
5	H8・SC01 F7・IV	口縁部	上段：横位・下段：斜位の山形押型文	横位の指ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・多、岩・多、黒針・わ 雲母・極わ	
6	H8・SC01-2	胴部	横位の山型押型文	ケズリ	橙 5YR6/6	黒褐 10YR3/1	透・多、岩・少	
7	H8・SC01	胴部	斜位の山型押型文	ケズリ	灰褐 7.5YR4/2	灰黄褐 10YR5/2	透・わ、黒針・極わ	
8	H8・SC01 H8・IV	口縁部～胴部	口縁部付近：剖竹状工具による刺突文、下段：斜位の貝殻条痕文	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	白・わ、透・多、岩・少、 黒針・極わ	
9	H7・SR01-6	口縁部	横位の連珠文風楕円押型文	上段：原体条痕、下段：横位の連珠文風楕円押型文	褐 7.5YR4/3	にぶい黄褐 10YR5/3	白・多、岩・少、雲母・多	
10	H7・SR01-5	口縁部	上段：横位・中段：縦位・下段：横位の山形押型文	ミガキ	にぶい褐 7.5YR5/4	灰黄褐 10YR4/2	白・多、透・わ、岩・わ、 雲母・小	口唇部：ナデ
11	H7・SR01	胴部	横位の山型押型文	ナデ	橙 7.5YR6/6	灰黄褐 10YR4/2	白・多、透・わ、岩・少、 雲母・多	
12	H7・SR01	胴部	菱形に近い楕円押型文	ナデ	橙 5YR6/6	灰黄褐 10YR4/2	白・多、透・わ、岩・わ、 雲母・多	
13	H7・SR01-1	口縁部～胴部	縦・横位の擦り糸文	上段：横位の擦り糸文、下段：指押さえ	橙 5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/3	白・多、岩・わ、黒針・わ	口唇部：爪形の刺突文
14	E7・IV	口縁部	列状に並んだ爪形文	指オサエ	にぶい黄褐 2.5YR6/3	にぶい黄褐 2.5YR6/3	白・多、透・わ、岩・少	
15	E7・IV	口縁部	上段：横ナデ、下段：列状に並んだ爪形文	指オサエ	浅黄橙 10YR8/4	にぶい黄橙 10YR6/4	白・多、透・わ、岩・少	
16	E7・IV	胴部	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	浅黄 2.5YR7/4	にぶい黄 2.5YR6/4	白・わ、透・極わ、岩・極 わ	
17	E7・IV	胴部	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	浅黄 2.5YR7/4	にぶい黄 2.5YR6/4	白・少、透・極わ、岩・極 わ	
18	E7・IV	胴部	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	明黄褐 10YR7/6	にぶい黄褐 10YR5/4	白・少、透・極わ、岩・少	
19	E7・IV	胴部	ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	浅黄 2.5YR7/4	にぶい黄 2.5YR6/4	白・少、透・極わ、岩・わ	
20	I7・IV	口縁部	工具による2列の刺突・横位、斜位の深い貝殻条痕	横位のケズリ	明褐 7.5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	白・多、岩・多、黒針・極 わ、雲母・多	
21	H8・IV	口縁部	工具による刺突	横ナデ・風化	明黄褐 10YR7/6	明黄褐 10YR7/6	白・少、透・多、岩・少、 黒針・多	口唇部ナデ
22	I8・IV	胴部	横・斜位の深い貝殻条痕	ミガキ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	白・少、透・わ、岩・少	
23	F7・III	胴部	斜位の深い貝殻条痕	—	浅黄 2.5YR7/4	橙 7.5YR6/6	透・多、黒針・少、黒粒・ わ	
24	H7・IV	胴部	横位の深い貝殻条痕	横ナデ	にぶい黄 2.5YR6/4	橙 7.5YR6/6	白・多、透・多、黒粒・わ	
25	E8・III	胴部	横位の深い貝殻条痕	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	白・多、透・多、黒針・少	
26	H7・IV	胴部	斜位の深い貝殻条痕	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	明黄褐 10YR7/6	白・少、透・極わ、岩・小、 黒針・少	
27	F7・IV	胴部	斜位の深い貝殻条痕	縦ナデ	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい赤褐 5YR5/4	透・多、黒針・わ	
28	G7・III	胴部	斜位の深い貝殻条痕	ケズリ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい褐 7.5YR5/3	白・多、透・多、黒針・わ	
29	F7・III、IV	胴部	斜位の深い貝殻条痕	ケズリ	黄橙 10YR8/6	にぶい褐 7.5YR5/3	白・多、透・多、黒針・わ	
30	I7・IV	胴部	斜位の深い貝殻条痕	ナデ	黄橙 10YR8/6	にぶい黄橙 10YR7/4	白・わ、黒針・多	
31	H7・IV	胴部	斜位の深い貝殻条痕	ナデ	黄橙 7.5YR8/8	黄橙 7.5YR8/8	白・わ、黒針・多	
32	I7・IV	口縁部	斜位の浅い貝殻条痕	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/4	白・わ、黒針・極わ	
33	I7・IV	口縁部	斜位の浅い貝殻条痕	横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	灰黄褐 10YR5/2	白・少、透・多、黒針・少	口唇部：ナデ
34	I8・SA1	口縁部	横位の浅い貝殻条痕	横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄褐 10YR4/2	白・少、透・少、黒針・極 わ	
35	G7・IV	胴部	斜位の浅い貝殻条痕	縦ミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄 2.5YR7/3	白・少、透・少、岩・わ、 黒針・少	
36	H8・IV	胴部	斜位の浅い貝殻条痕	縦ミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	白・少、透・少、岩・わ、 黒針・少	
37	H8・IV	胴部	斜位の浅い貝殻条痕	縦ミガキ	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	白・少、透・少、岩・わ、 黒針・少	
38	F7・IV	—	斜位の浅い貝殻条痕	—	にぶい黄橙 10YR7/4	—	白・多、岩多	
39	G8・IV	胴部	斜位・横位の浅い貝殻条痕	横位の貝殻条痕の後、横ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	白・多、透・わ、岩・多、 黒針・極わ	
40	I8・IV、 H8・IV	口縁部	横位の深い貝殻条痕、連続した羽状の貝殻刺突	指ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	白・少、透・わ、岩・少	口唇部：指ナデ

表3 繩文時代出土土器観察表②

遺物番号	出土地区・層位	部位	文様及び調整		色調		胎土	備考
			外 面	内 面	外 面	内 面		
41	H7・Ⅲ、H9 IV	口縁部	横位の深い貝殻条痕、連続した羽状の貝殻刺突	指ナデ、指オサエ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	白・少、透・わ、岩・少、黒針・極わ	
42	H8・IV	口縁部～胴部	横位の深い貝殻条痕、連続した斜位の貝殻刺突	指ナデ、指オサエ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	白・少、透・わ、岩・少、黒針・極わ	
43	—	口縁部～胴部	横位の深い貝殻条痕、連続した羽状の貝殻刺突	指ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	白・少、透・わ、岩・少、黒針・極わ	
44	H8・IV	胴部	横位の深い貝殻条痕、連続した羽状の貝殻刺突	指ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	白・少、透・わ、岩・少、黒針・極わ	
45	I8	口縁部	横位の貝殻刺突	横ナデ	浅黄橙 7.5YR8/6	橙 7.5YR7/6	白・多、透・多、岩・少、黒針・多、黒粒・少	口唇部:ナデ
46	I6・IV、Ⅲ	胴部	工具による羽状の細かい刺突	ナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/3	白・多、透・極わ、岩・多、雲母・多	
47	G7・Ⅲ	胴部	工具による羽状の細かい刺突	ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	白・多、透・極わ、岩・多、雲母・わ	
48	I8	胴部	工具による羽状の細かい刺突	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/3	白・多、透・わ、岩・多、雲母・多	
49	I7	胴部	工具による羽状の細かい刺突	ナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	白・多、岩・多、雲母・多	
50	I6・Ⅲ	胴部	工具による羽状の細かい刺突	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	白・多、岩・多、雲母・多	
51	I6・Ⅲ	胴部	工具による細かい刺突	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	白・多、岩・多、雲母・多	
52	I7・Ⅲ	底部付近	工具による羽状の細かい刺突	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	白・多、透・極わ、岩・多、雲母・多	
53	H5・Ⅲ	口縁部～胴部	斜位の山形押型文、斜位の貝殻条痕	横位の指ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・多、岩・多、雲母・極わ	口唇部:ナデ、穿孔あり
54	G7・IV、H7・IV、I6・Ⅲ	口縁部～胴部	上段:横位の山形押型文、下段:斜位の山形押型文	横位の指ナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	黄褐 2.5YR5/4	白・多、岩・多、雲母・多	
55	G4・Ⅲ	口縁部	横位の山形、貝殻条痕	横位の指ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・多、岩・多、雲母・極わ	口唇部:ナデ
56	H7・IV	口縁部	上段:横位・下段:斜位の山形押型文、斜位の貝殻条痕	横位の指ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・多、岩・多、雲母・極わ	口唇部:ナデ
57	H8・Ⅲ	口縁部	横位の山形押型文	横位のナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	白・多、透・わ、岩・小、雲母・少	口唇部:ナデ
58	G4・Ⅲ	胴部	斜位の山形押型文、斜位の貝殻条痕	横位の指ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・多、岩・多、雲母・極わ	
59	F7・IV	胴部	斜位の山形押型文、斜位の貝殻条痕	横位の指ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・多、岩・多、雲母・極わ	
60	H8・IV、H7・IV	胴部	横位の山型押型文	ケズリ	橙 5YR6/6	黒褐色 10YR3/1	透・少、岩・少	
61	H8・IV	胴部	横位の山形押型文	ケズリ	橙 5YR6/6	黒褐色 10YR3/1	透・多、黒針・極わ	
62	G4・Ⅲ	底部	横位の山形押型文、斜位の貝殻条痕	横位の指ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・多、岩・多、雲母・極わ	
63	I7・Ⅲ	口縁部	縦位の山形押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/3	白・少、透・少、岩・少、黒針・わ	口唇部:横位の山形押型文
64	H6・Ⅲ	口縁部	横位の山形押型文	上段:横位の山形押型文 下段:ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	透・多、岩・小、黒針・少
65	I8・IV	口縁部下	横位の山形押型文	上段:横位の山形押型文 下段:ナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR6/3	白・少、透・少	
66	J7・IV	胴部	横位の山形押型文	横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・少、透・わ、岩・少、黒針・多	穿孔あり
67	I8・IV	胴部	横位の山形押型文	横ナデ	明黄褐 10YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	白・わ、透・わ、岩・わ、黒針・少	
68	I8・SA1 埋土	胴部	横位の山形押型文	横ナデ	明黄褐 10YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	白・わ、透・わ、岩・わ、黒針・少	
69	H9・IV	胴部	横位の山形押型文	工具によるミガキ	橙 7.5YR6/6	橙 5YR6/6	岩・極わ	
70	H8・IV	胴部	横位の山形押型文	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄褐 10YR5/3	白・多、透・わ、岩・わ	
71	I8・IV	胴部	横位の山形押型文	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄褐 10YR5/3	白・少、透・少、岩・わ	
72	I8・IV	胴部	横位の山形押型文	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄褐 10YR5/3	白・少、透・わ、岩・わ	
73	I8・IV	胴部	横位の山形押型文	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄褐 10YR5/3	白・少、透・わ、岩・わ	
74	H8・IV	胴部	横位の山形押型文	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄褐 10YR5/3	白・わ、透・わ、岩・わ	
75	F7・IV	胴部	横位の山形押型文	ナデ	褐 7.5YR4/3	灰黄褐 10YR4/2	白・多、岩・わ、雲母・多	
76	G7	胴部	横位の山形押型文	ナデ	褐 7.5YR4/3	灰黄褐 10YR4/2	白・多、岩・わ、雲母・多	
77	I8・IV	底部付近	上段:横位・下段:斜位の山形型文	ナデ	褐 7.5YR4/3	灰黄褐 10YR4/2	白・多、岩・多、雲母・多	
78	I7・IV	底部	縦位の山形押型文	—	橙 7.5YR6/6	—	白・少、透・わ、黒針・極わ	
79	I8・IV	口縁部	縦位・横位の楕円押型文	上段:原体条痕・中段:横位の楕円押型文・下段:ナデ	橙 7.5YR6/6	にぶい黄褐 10YR5/3	白・少、岩・少	口唇部:ナデ

表4 縄文時代出土土器観察表③

遺物番号	出土地区・層位	部位	文様及び調整		色調		胎土	備考
			外 面	内 面	外 面	内 面		
80	H7・IV	胴部	横・斜位の楕円押型文	ナデ	橙 7.5YR7/6 10YR6/3	にぶい黄褐 5YR5/4	白・多、透・わ、岩・少、 黒針・わ	
81	I7・IV	胴部	横・斜位の楕円押型文	ナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 5YR4/3	白・少、透・多、岩・多、 黒針・極わ、黒粒・極わ	
82	I7・IV	胴部	斜位の楕円押型文	ナデ	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 5YR4/3	白・少、透・多、岩・少	
83	I8・IV	胴部	斜位の楕円押型文	ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/4	白・少、透・極わ、岩・少	
84	I8・IV	胴部	斜位の楕円押型文	ナデ	にぶい黄褐 10YR4/3	にぶい黄褐 10YR5/3	白・少、透・極わ、岩・少、 黒針・極わ	
85	I8・IV	底部	横位の楕円押型文、ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	白・少、透・少、岩・少	底面ミガキ
86	I7・IV	底部	ナデ、一部楕円押型文	—	にぶい褐 7.5YR5/4	—	白・少、透・多、岩・多、 黒針・極わ、黒粒・極わ	底面ミガキ、 上げ底気味
87	I9	口縁部付近	横位の楕円押型文	横位の沈線	浅黄 2.5YR7/3	浅黄 2.5YR7/3	白・多、岩・多、黒針・多	
88	H9・III	口縁部付近	横位の楕円押型文	横位の沈線	浅黄 2.5YR7/3	にぶい黄褐 10YR7/3	白・多、岩・多、黒針・多	
89	H9・IV	胴部	横位の楕円押型文	横ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	白・多、岩・多、黒針・多	
90	H9・IV	胴部	斜位の楕円押型文	—	浅黄 2.5YR7/4	—	白・少、透・わ、岩・多、 黒針・多	
91	H9	胴部	斜位の楕円押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	黒褐 10YR3/2	白・多、透・極わ、岩・少、 黒針・多	
92	H8・III	胴部	横位の楕円(菱形状)押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄 2.5YR6/3	岩・わ	
93	H9・IV	胴部	横位の連珠文風楕円押型文	ナデ	褐 7.5YR4/3	にぶい黄褐 10YR5/4	白・多、岩・多、雲母・多	
94	H8・III	胴部	横位の連珠文風楕円押型文	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	灰黄褐 10YR4/2	白・多、透・少、岩・少	
95	E6・IV	胴部	斜位の格子目状押型文	—	にぶい黄橙 10YR7/4	—	白・多、透・少、岩・多、 黒針・多	
96	H9・III	胴部	斜位の格子目状押型文	ナデ	橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・少、透・少、岩・多、 黒針・多	
97	G4・III	胴部	斜位の格子目状押型文	ナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	白・わ、透・わ、岩・多、 黒針・多	
98	G4・III	胴部	斜位の格子目状押型文	ナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	白・少、透・わ、岩・多、 黒針・多	
99	G4・III	胴部	斜位の格子目状押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・わ、岩・多、黒針・少	
100	G4・III	胴部	斜位の格子目状押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR7/6	白・少、岩・多、黒針・少	
101	H8・IV	底部	斜位の格子目状押型文	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・少、岩・多、黒針・多	
102	G6・III	胴部	斜位の縄文	ナデ	橙 7.5YR7/6	明黄褐 10YR7/6	白・わ、透・極わ、岩・多、 黒針・極わ	
103	H8・III	胴部	縦位の撚り糸文	—	にぶい橙 7.5YR6/4	—	白・多、透・多、黒針・多	
104	H7・IV	胴部	横位の撚り糸文、一部撚り糸文が重なる	ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	白・多、透・わ、岩・わ、 黒針・多	
105	F6・IV	口縁部	斜位の条痕	ナデ	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR5/3	白・多、岩・多、雲母・多	口唇部ナデ
106	I8・IV	口縁部	横位の条痕	ミガキ	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	白・少、透・わ、岩・少、 黒針・わ	口唇部ナデ
107	J8・IV	口縁部	横位の条痕文	ミガキ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	白・少、透・わ、岩・少、 黒針・極わ	口唇部ナデ
108	I8・IV	口縁部	斜位の条痕文	ミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	白・少、透・わ、岩・少、 黒針・極わ	口唇部ナデ
109	H8・IV	胴部	横位の条痕	—	にぶい橙 7.5YR6/4	—	白・少、透・少、岩・多、 黒針・極わ、黒粒・極わ	
110	G7・IV	底部	斜位の条痕	ナデ	橙 7.5YR7/6	浅黄橙 10YR8/4	白・少、透・少、岩・少、 黒針・少、黒粒・極わ	平底(推定底 径10cm)
111	I7・IV	底部	ミガキ	ミガキ	明黄褐 10YR6/6	にぶい黄橙 10YR5/4	白・少、透・わ、岩・多、 黒針・少、黒粒・極わ	平底(推定底 径5cm)
112	I8・IV	底部	ミガキ	ミガキ	黄褐 10YR5/6	にぶい黄褐 10YR5/4	白・少、透・極わ、岩・多	平底(推定底 径約5.5cm)
113	J8・IV	底部	横位の条痕文	ナデ	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6	白・少、透・少、岩・少、 黒針・極わ、黒粒・わ	平底
114	H8・IV	底部	ナデ	ナデ	明黄褐 10YR7/6	明黄橙 2.5YR7/6	白・極わ、透・極わ、岩・ わ、黒針・多、黒粒・多	
115	G6・SA3-59	頸部	山形の鋭利な工具による沈線	ナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	白・多、透・極わ、岩・わ、 雲母・多	
116	G7	胴部	4条のくし状工具による押し引き文様	ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	白・多、透・少、岩・多、 黒針・極わ、黒粒・多	
117	H8・SA2-37	胴部	多条の工具による沈線	ナデ	明黄褐 10YR6/6	にぶい黄褐 10YR5/3	白・少、透・多、岩・わ 滑石・多	
118	F8・IV	胴部	ナデ	ナデ	赤褐 5YR4/6	橙 5YR6/6	白・多、透・極わ、岩・多、 黒針・少、黒粒・少	

### ③石器

縄文時代の遺物包含層より多数の石器が出土している。ここでは製品類を中心に報告をおこなっているが、本遺跡では多数の未製品や細かい薄片が集中した地区があることを付け加えておきたい。

#### 【石鏸（第17・18図119～147）】

石鏸については、29点図化している。石材は桑ノ木津留産黒曜石（肉眼観察による）やチャートを使用しているものが多数を占め、そのほか無班晶安山岩（135・138）、玉髓（137）、頁岩（139）を使用しているものもみられた。形態についても多様にわたったが、下記のとおりおおまかに分類した。

I類（119～124）：全体形が正三角形に近い形を呈するもの。

II類（125～129）：全体形が二等辺三角形に近い形を呈するもの。

III類（130）：長さと幅が3cm以上で非常に大型のもの。

IV類（131～137）：特徴的な抉り、脚部を呈するもの。いわゆる鍬形鏸と呼ばれる類。

V類（138～147）：その他特徴的な形態を呈するもの。

#### 【スクレーパー（第18図148～152）】

5点図化している。石材はそれぞれ桑ノ木津留産黒曜石（148）、チャート（149～151）、頁岩（152）とみられる。いずれも両側もしくは片面に刃部調整がなされるが、特に148については、特徴的な調整がみられる。

#### 【尖頭器（第18図153）】

1点図化している。表裏とも全体に細かな剥離が施され、鋸歯状の側縁を作りだしている。長軸に対して短軸が短く細長い印象を持つ。石材については、肉眼観察により桑ノ木津留産黒曜石とみられる。

#### 【石匙（第18図154）】

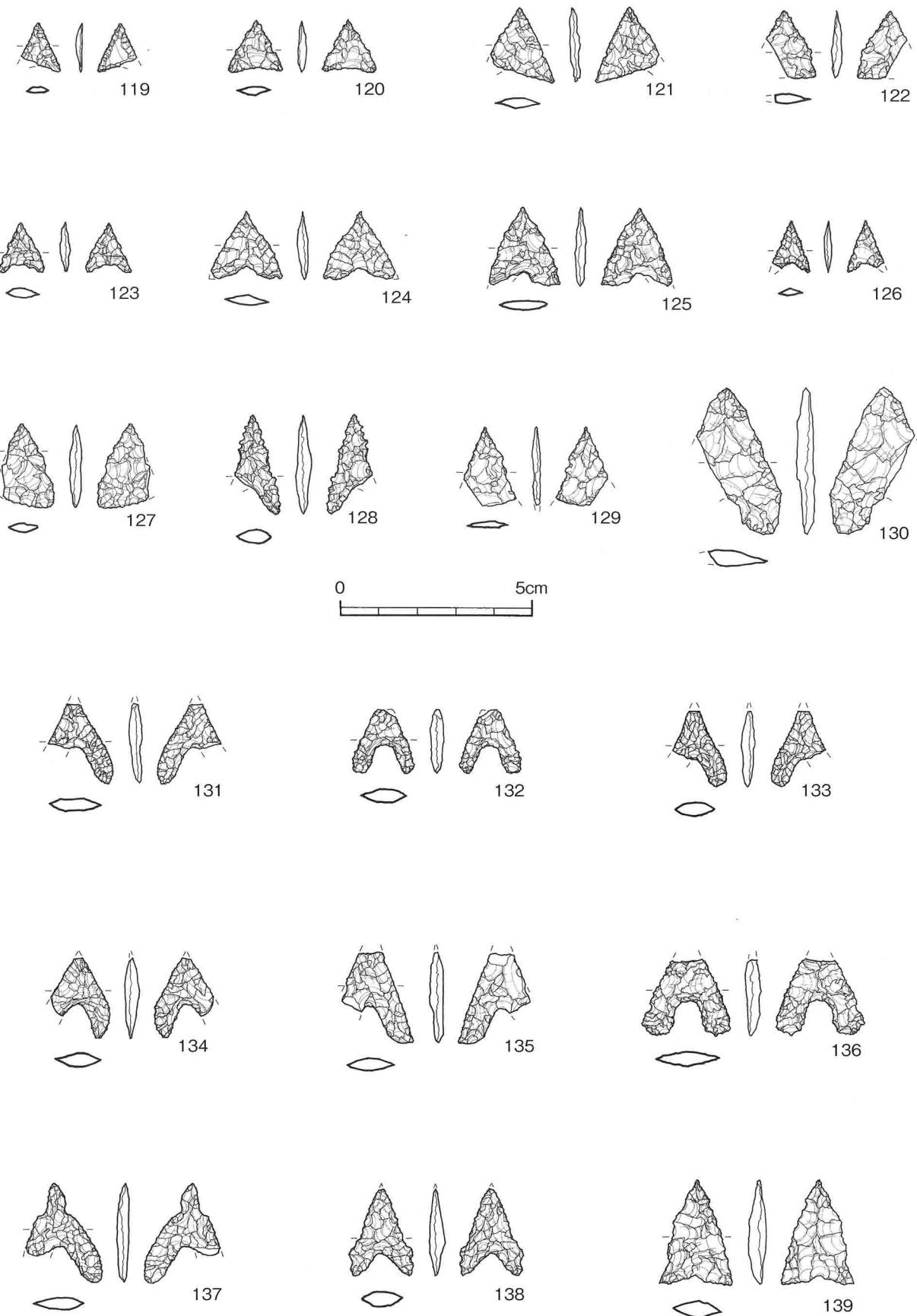
1点図化している。一部を両側縁からの調整によりつまみ部分を作り出し、他の部分には刃部の加工を施している。非常に小型である。石材については、肉眼観察により桑ノ木津留産黒曜石とみられる。

#### 【水晶製品（第18図155）】

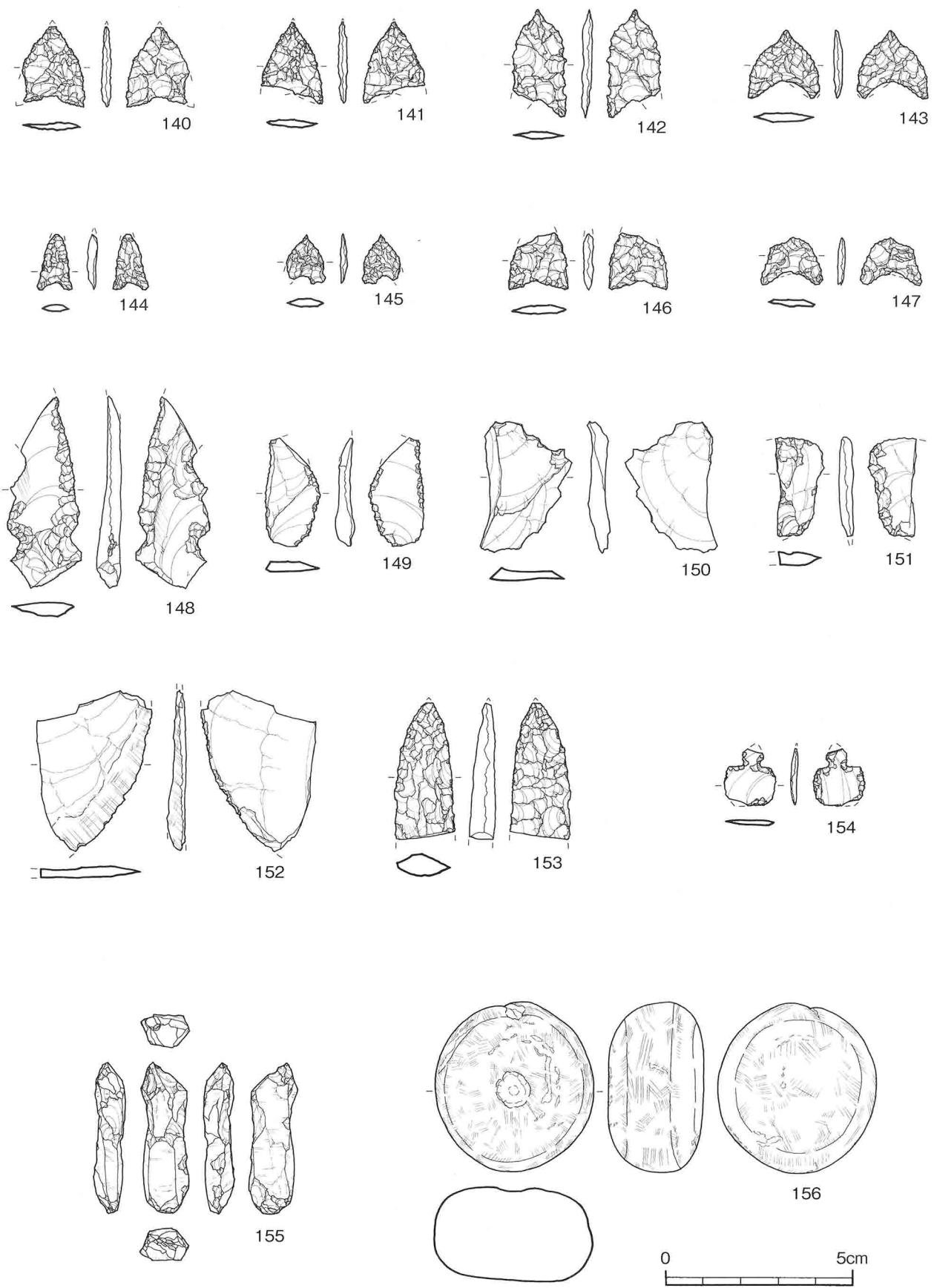
1点図化している。両側の先端には加工痕がみられ、何らかの目的のためにくさび状に加工された可能性がある。石材は水晶である。

#### 【用途不明石器（第18図156）】

1点図化している。形状は饅頭型で、中央の凹芯を中心として器面の渦が明瞭に認められる。明確な使用痕がみられないため用途不明石器とした。石材はノジュールとみられる。



第17図 縄文時代遺物包含層出土石器実測図① (S = 2/3)



第18図 縄文時代遺物包含層出土石器実測図② (S = 2/3)

表5 石器観察表

( ) : 残存

遺物番号	出土地区	層	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
1	E4	IV	スクレーパー	(4.7)	2.7	1.0	7.9	流紋岩	旧石器
119	D4	一括	打製石鏃	1.3	(1.1)	0.2	0.2	黒曜石	欠損あり
120	I7	III	打製石鏃	1.4	1.5	0.3	0.4	黒曜石	
121	I7	IV	打製石鏃	2.0	(1.7)	0.3	0.6	黒曜石	欠損あり
122	F6	IV	打製石鏃	(1.8)	(1.3)	0.3	0.4	黒曜石	欠損あり
123	I7	IV	打製石鏃	1.3	1.2	0.3	0.2	黒曜石	
124	H9	IV	打製石鏃	1.8	1.9	0.3	0.6	黒曜石	欠損あり
125	G7	IV	打製石鏃	(2.1)	(1.9)	0.3	0.8	黒曜石	
126	E4	IV	打製石鏃	1.4	(1.0)	0.2	0.2	黒曜石	欠損あり
127	J8	IV	打製石鏃	2.2	(1.4)	0.4	1.0	黒曜石	欠損あり
128	I7	III	打製石鏃	2.6	(1.2)	0.5	0.8	黒曜石	欠損あり
129	H7	III	打製石鏃	(2.1)	(1.4)	0.3	0.6	チャート	欠損あり
130	I6	III	打製石鏃	3.9	(2.3)	0.5	3.3	チャート	欠損あり
131	H6	III	打製石鏃	(2.1)	(1.7)	0.4	0.8	チャート	欠損あり
132	G8	IV	打製石鏃	1.7	1.6	0.4	0.7	チャート	欠損あり
133	G5	III	打製石鏃	(2.0)	(1.4)	0.4	0.6	チャート	欠損あり
134	G7	SA3	打製石鏃	(1.7)	(1.6)	0.4	1.2	チャート	欠損あり、SA3 埋土内出土
135	G8	IV	打製石鏃	(2.4)	(1.9)	0.4	1.2	安山岩	欠損あり
136	H8	III	打製石鏃	(2.0)	2.3	0.4	1.6	チャート	欠損あり
137	H8	IV	打製石鏃	2.6	(2.0)	0.4	1.0	玉髓	欠損あり
138	F8	IV	打製石鏃	(2.3)	1.7	0.5	1.0	安山岩	
139	F8	一括	打製石鏃	2.8	1.9	0.5	1.7	頁岩	
140	F6	一括	打製石鏃	(2.2)	(1.7)	0.3	0.9	チャート	欠損あり
141	I8	IV	打製石鏃	(2.2)	(1.7)	0.3	0.7	黒曜石	欠損あり
142	I8	SA1	打製石鏃	2.9	(1.5)	0.3	1.0	黒曜石	欠損あり、SA1 埋土内出土
143	G5	III	打製石鏃	1.9	1.9	0.3	0.8	黒曜石	欠損あり
144	H8	IV	打製石鏃	(1.5)	1.0	0.3	0.4	黒曜石	欠損あり
145	I9	一括	打製石鏃	1.4	(1.1)	0.3	0.4	黒曜石	欠損あり
146	J7	IV	打製石鏃	(1.6)	1.6	0.3	0.6	黒曜石	欠損あり
147	I7	IV	打製石鏃	1.3	1.7	0.2	0.4	黒曜石	
148	H8	IV	スクレーパー	(5.2)	(2.0)	0.7	4.9	黒曜石	欠損あり
149	H8	IV	スクレーパー	(2.9)	1.5	0.6	1.8	チャート	欠損あり
150	G8	IV	スクレーパー	3.5	2.5	0.6	3.0	チャート	
151	I7	III	スクレーパー	(2.7)	(1.3)	0.4	1.7	チャート	欠損あり
152	J7	IV	スクレーパー	(4.4)	(3.1)	(0.5)	5.8	頁岩	
153	H6	III	尖頭器	(3.7)	1.7	0.7	4.1	黒曜石	欠損あり
154	I7	IV	石匙	(1.6)	1.4	0.2	0.4	黒曜石	欠損あり
155	H3	IV	石器	4.1	1.3	0.9	5.3	水晶	加工あり
156	I8	IV	石器	4.6	4.3	2.6	76.2	ノジユール	
194	H8	SA2	装飾品	3.3	1.7	0.4	3.2	じや紋岩	SA2 埋土内出土

### 第3節 古代の調査

#### 1. 古墳時代の遺構と出土遺物について

##### 【1号竪穴住居跡（第20図）】

I 8区からJ 8区にかけて検出された。形状は3.5m × 3.5mで検出面からの深さ約0.3mの方形プランを呈する。主柱穴は検出できなかったが、プランの北西方向に深さ0.4mと深さ0.5mの柱穴が検出されておりこの住居に付随するものと考えられる。床面は貼り床がほどこされていたと考えられる。

出土遺物についてはそのほとんどが破片であった。157～160は甕である。157・158は甕の口縁部で、157の外面・内面ともにナデによる調整が見られ、また口唇部は同じくナデによる成形にて平坦面が設けられる。158は外面に斜位のタタキ目を持ち、口唇部の内面は丸く仕上げられている。159・160はタタキ目を持つ胴部で、特に160の内面には横位のハケメによる調整が見られる。161・162は壺の口縁部である。162の断面形は、緩やかに外反し尖舌状を呈する。163～165は高杯の脚すそ部である。いずれも外反するが、164については特に大きく外反する。

##### 【2号竪穴住居跡（第21・22図）】

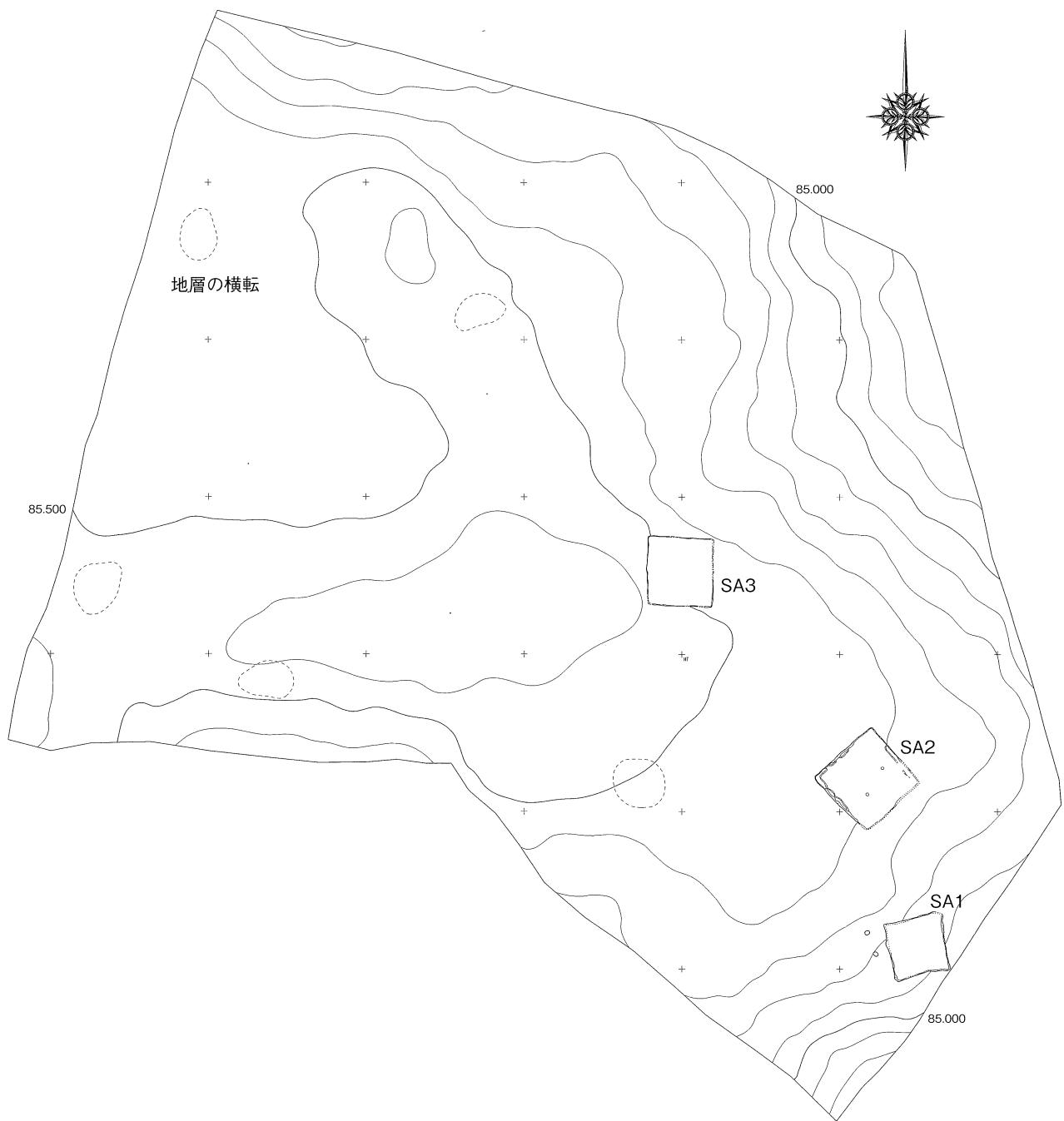
調査地の南東部H 7・8区からI 8区にかけて検出された。南東部が搅乱をうけ、はっきりした検出が行えなかつたが4.8m × 4.8mで検出面からの深さが0.2mの方形プランを呈すると考えられる。プラン中央部には焼土、柱穴が2本、東側には壁帶溝を持つ。床面は貼り床がほどこされていたと考えられる。

出土遺物については、検出されている住居跡の中では一番多かった。166～178については甕である。166～175は口縁部でタタキ目を持つものがほとんどで173のみタタキ目を持たない。176は頸部、おなじく177は胴部でありいずれもタタキ目を持つ。178は底部で外面はタタキ目を持ち接地面はドーナツ状である。179～181は壺の胴部であり、いずれも外面にタタキ目を持つ。182は小型丸底壺の口縁部であり外内面とも工具によるナデの器面調整が見られる。183～193については高杯である。183・184は杯底部である。185～187は脚部であり、186については中央が若干膨らんだ形を呈する。188～193は脚すそ部である。外形は内湾ぎみのものが多い。194はそら豆色をしたじゃもん岩製の装飾品である。

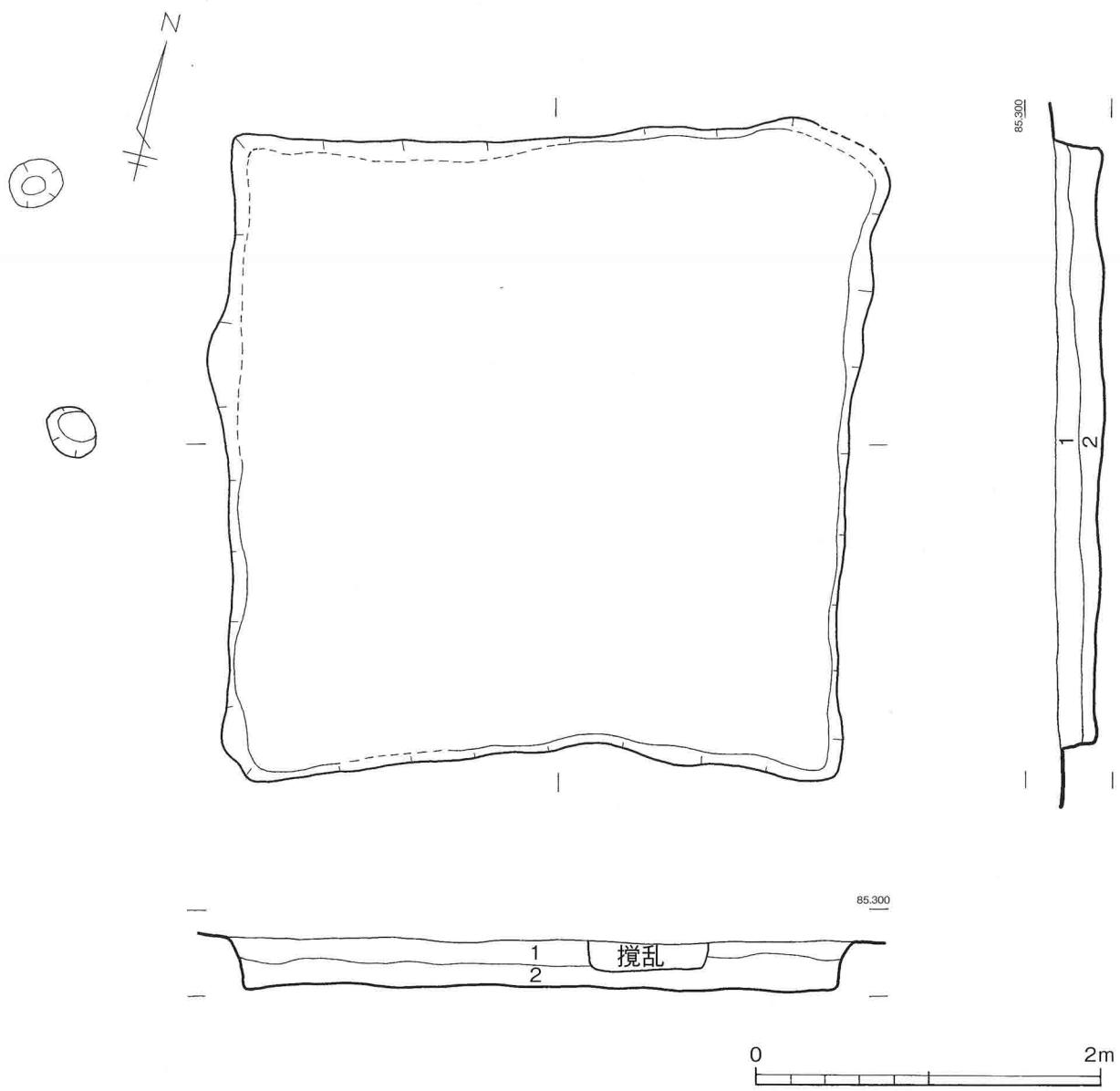
##### 【3号竪穴住居跡（第23図）】

調査地のほぼ中央G 6区からG 7区にかけて検出された。後世の搅乱をうけていたが、4.2m × 4.2mで検出面からの深さ0.2mの方形プランを呈すると考えられる。また、プラン中央部には焼土が検出されている。主柱穴は検出することができなかった。1号・2号と同じく床面にはアカホヤをブロック状に含んだ貼り床がほどこされている。

出土遺物は少なかった。195～199は甕である。195の口縁部はくの字状に外反する。198は外面にタタキ目による調整がみられ、口唇部はナデにより成形される。同じく199は甕の胴部である。外面はタ



第19図 古墳時代以降遺構配置図 (S=1/400)



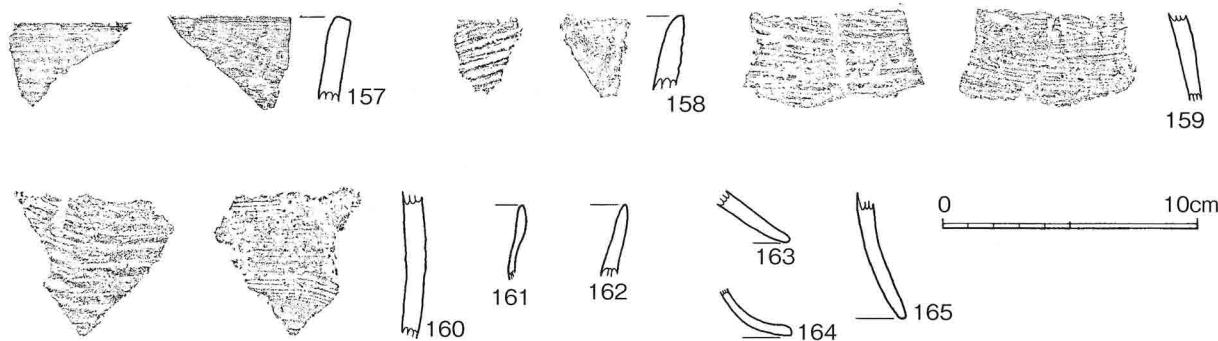
### 1号竖穴住居跡土層注記

1: 褐色土層 (7.5YR4/6)

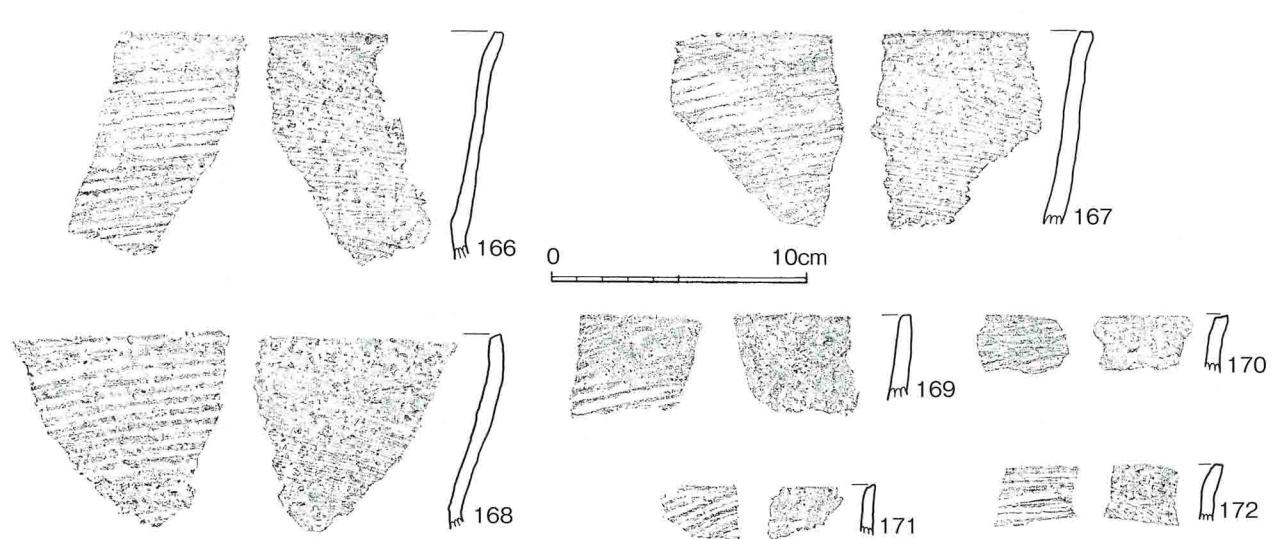
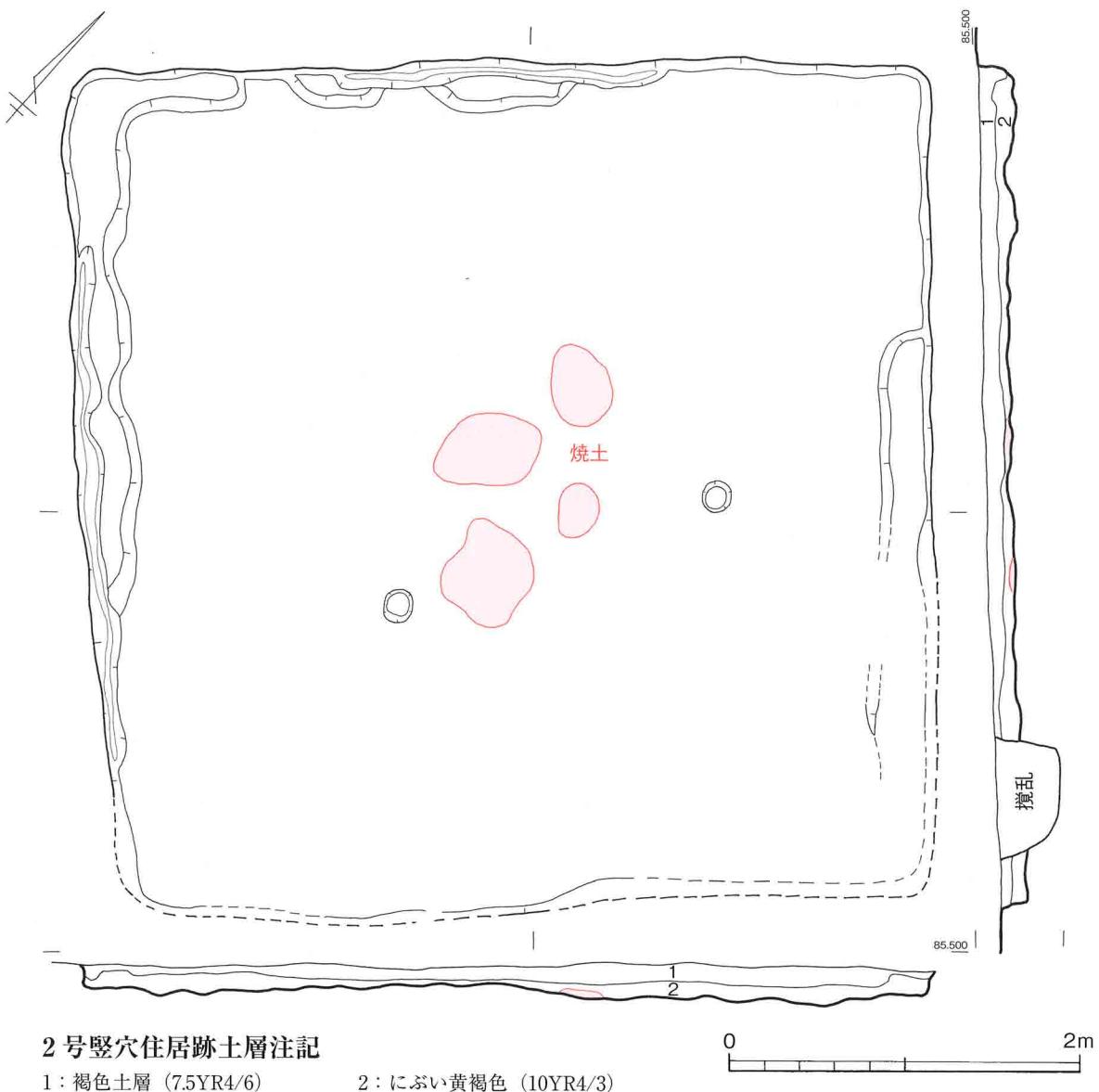
2: にぶい黄褐色 (10YR4/3)

さらさらしており粘性なし。

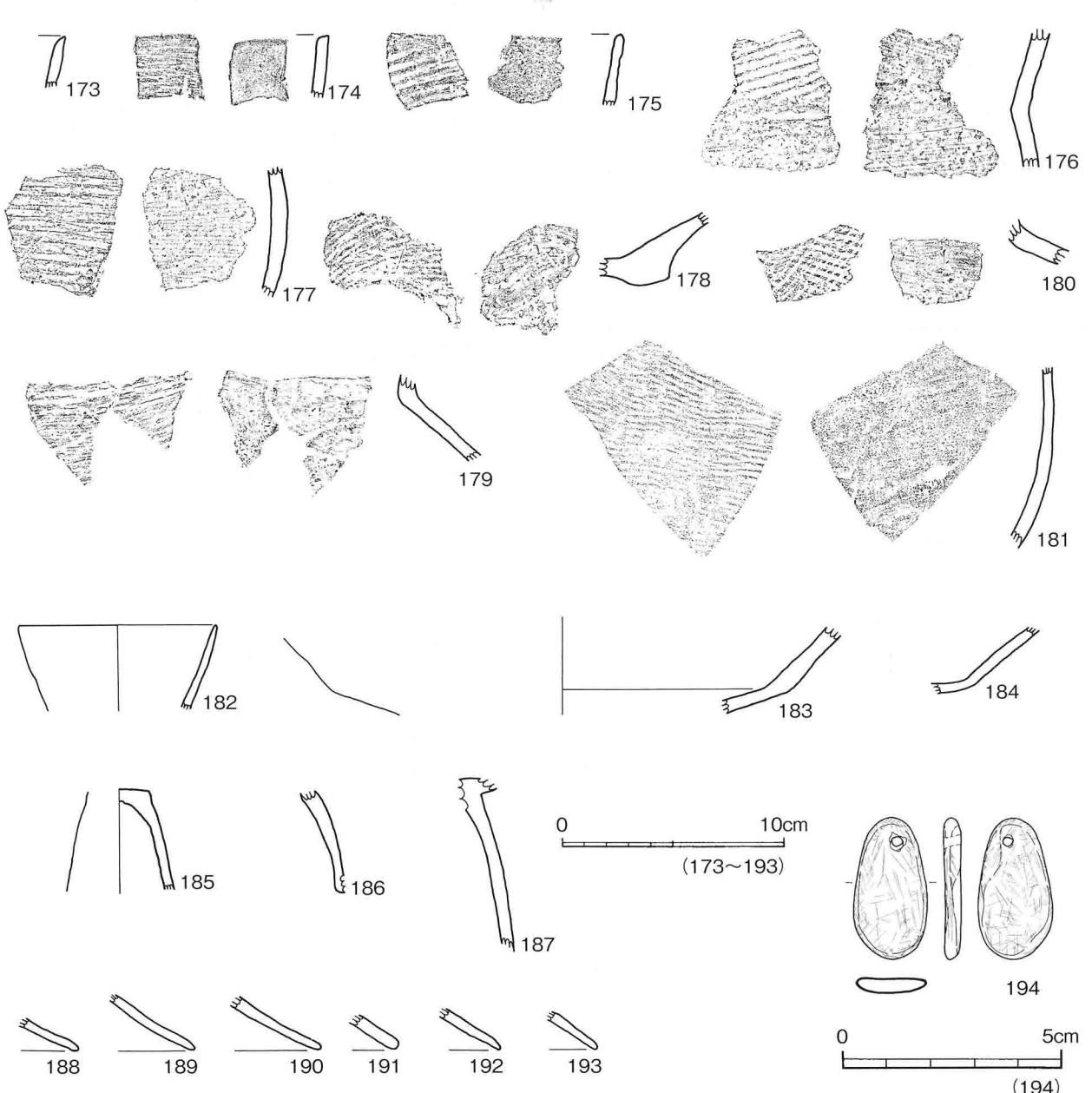
アカホヤをブロック状に多く含む。硬質でしまりがある。



第20図 1号竖穴住居跡実測図 ( $S = 1/40$ ) 及び出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

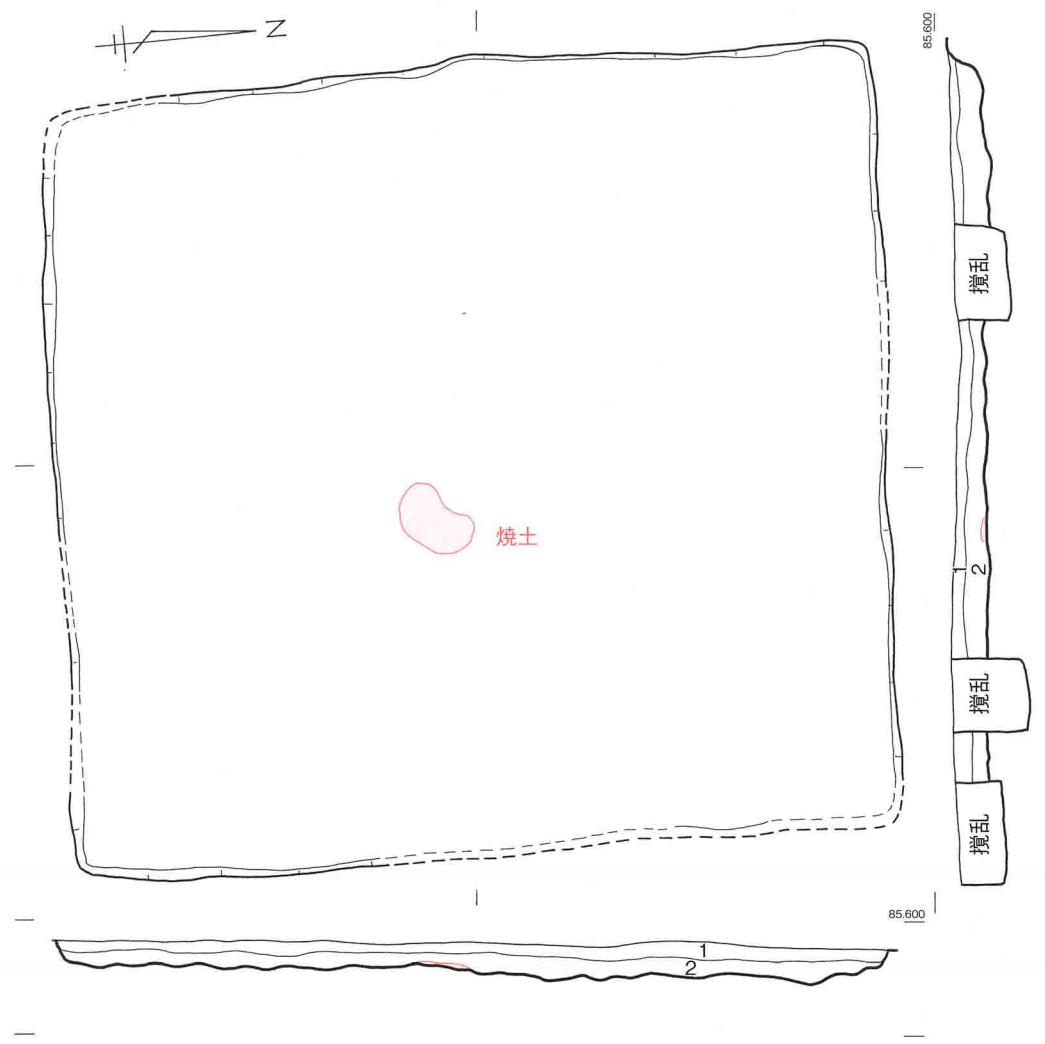


第21図 2号竖穴住居跡実測図 ( $S = 1/40$ ) 及び出土遺物実測図① ( $S = 1/3$ )



第 22 図 2 号竪穴住居跡出土遺物実測図② ( $S = 1/3, 2/3$ )

タキ目、内面はハケ目による器面調整がみられる。200～202は小型丸底壺である。200は口縁部で緩やかに外反し口唇部は丸く仕上げられている。202は胴部から底部にかけて残存しており、外面は工具によるナデにて器面調整がされており外形は偏球形を呈する。203～207は高杯である。203は脚部である。下部が若干膨らんだ形を呈する。204～207は脚すそ部である。外形はいずれも内湾気味であるが、204については、すその先端をナデによる成形で若干平坦にしている。



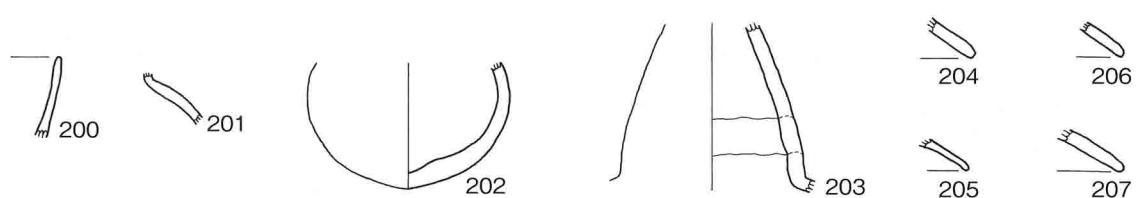
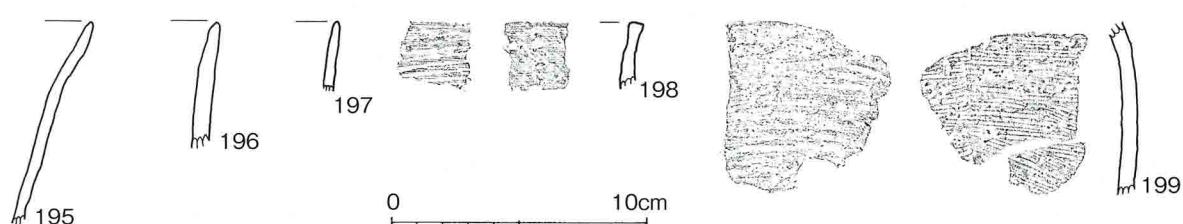
### 3号竪穴住居跡土層注記

1: 褐色土層 (7.5YR4/6)

さらさらしており粘性なし。

2: にぶい黄褐色 (10YR4/3)

アカホヤをブロック状に多く含む。硬質でしまりがある。



第23図 3号竪穴住居跡実測図 ( $S = 1/40$ ) 及び出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

表6 穫穴住居内出土土器観察表①

遺物番号	出土遺構	器種部位	器面調整		色調		胎土	備考
			外面	内面	外面	内面		
157	SA1	甕口縁部	横ナデ	横ナデ	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	砂粒φ1~3mm	
158	SA1	甕口縁部	斜タタキ	ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	砂粒φ1~5mm	
159	SA1	甕胴部	横タタキ	横ハケメ	橙 7.5YR6/6	浅黄橙 7.5YR8/4	砂粒φ1~2mm	
160	SA1	甕胴部	斜タタキ	横ハケメ	にぶい橙 5YR6/4	橙 5YR6/4	砂粒φ0.5~3mm	
161	SA1	壺口縁部	横ナデ	横ナデ	明黄褐 10YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/3	砂粒φ1~4mm	
162	SA1	壺口縁部	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	砂粒φ1~2mm	
163	SA1	高杯脚すそ部	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4		
164	SA1	高杯脚すそ部	横ナデ	横ナデ	灰 7.5YR5/1	灰 7.5YR5/1	砂粒φ2mm	
165	SA1	高杯脚すそ部	縦ミガキ	縦ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4		
166	SA2	甕口縁部	横タタキ	横ハケメ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	砂粒φ1~3mm	
167	SA2	甕口縁部	横タタキ	横ハケメ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	砂粒φ1~3mm	
168	SA2	甕口縁部	横タタキ	横ハケメ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	砂粒φ1~5mm	
169	SA2	甕口縁部	斜タタキ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	砂粒φ1~2mm	
170	SA2	甕口縁部	横タタキの後ナデ	横ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	砂粒φ1~3mm	
171	SA2	甕口縁部	斜タタキ	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	砂粒φ1~3mm	外面スス付着
172	SA2	甕口縁部	横タタキ	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	砂粒φ1~3mm	外面スス付着
173	SA2	甕口縁部	横ナデ	横ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	砂粒φ1~3mm	
174	SA2	甕口縁部	横タタキ	横ナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/3	砂粒φ1~3mm	
175	SA2	甕口縁部	斜タタキ	ナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	砂粒φ1~3mm	
176	SA2	甕頸部	斜タタキ	横ハケメ	橙 7.5YR7/6	灰 7.5YR4/1	砂粒φ1~3mm	
177	SA2	甕胴部	横タタキ	横ハケメ	橙 5YR6/6	褐灰 7.5YR6/1	砂粒φ1~3mm	
178	SA2	甕底部	斜タタキ	横ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	砂粒φ1~5mm	ドーナツ状の上げ底
179	SA2	壺頸部	横タタキ	横ナデ	橙 5YR6/8	橙 5YR6/8	砂粒φ1~3mm	
180	SA2	壺頸部	斜タタキ	横ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR7/6	砂粒φ1~5mm	
181	SA2	壺胴部	横タタキ	横ハケメ	浅黄橙 7.5YR8/6	にぶい黄橙 10YR7/4		
182	SA2	小型丸底壺口縁部	斜ハケメ 横ナデ	斜ハケメ 横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4		
183	SA2	高杯杯底部	ミガキ	ミガキ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4		反転復元
184	SA2	高杯杯底部	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4		
185	SA2	高杯脚部	横ナデ	縦ナデ	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6		
186	SA2	高杯脚部	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	オリーブ黒 7.5YR3/1		
187	SA2	高杯脚部	ナデ	—	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	黒色針状粒ごくわずかに含む	
188	SA2	高杯脚すそ部	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄橙 10YR8/4		

表7 積穴住居内出土土器観察表②

遺物番号	出土遺構	器種部位	器面調整		色調		胎土	備考
			外面	内面	外面	内面		
189	SA2	高杯脚すそ部	ミガキ	工具によるナデ	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4		
190	SA2	高杯脚すそ部	ミガキ	ミガキ	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6		
191	SA2	高杯脚すそ部	ミガキ	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4		
192	SA2	高杯脚すそ部	工具によるナデ	ミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	黒色針状粒ごくわずかに含む	
193	SA2	高杯脚すそ部	横ナデ	ミガキ	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4		
195	SA3	甕口縁部	横ナデ	横ナデ	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	砂粒φ1~3mm	
196	SA3	甕口縁部	横ナデ	横ナデ	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR6/3	砂粒φ0.5~3mm 黒色針状粒ごくわずか	
197	SA3	甕口縁部	横ナデ	横ナデ	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	砂粒φ0.5~3mm	
198	SA3	甕口縁部	斜タタキ	横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3	砂粒φ1~3mm	
199	SA3	甕胴部	横タタキ	横ハメケ	にぶい黄橙 10YR6/4	明黄褐 10YR7/6	砂粒φ0.5~3mm	
200	SA3	小型丸底壺口縁部	横ナデ	横ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	黒色針状粒ごくわずかに含む	
201	SA3	小型丸底壺頸部	横ナデ	横ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR5/3		
202	SA3	小型丸底壺胴部~底部	工具による横ナデ	ナデ	橙 7.5YR7/6	橙 5YR6/6	黒色針状粒ごくわずかに含む	
203	SA3	高杯脚部	横ナデ	横ナデ	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR7/6	黒色針状粒ごくわずかに含む	
204	SA3	高杯脚すそ部	ミガキ	横ナデ	橙 7.5YR7/6	橙 5YR6/6		
205	SA3	高杯脚すそ部	横ナデ	横ナデ	橙 7.5YR8/6	橙 7.5YR8/6	黒色針状粒ごくわずかに含む	
206	SA3	高杯脚すそ部	横ナデ	横ナデ	明黄褐 10YR7/6	明黄褐 10YR7/6	黒色針状粒ごくわずかに含む	
207	SA3	高杯脚すそ部	ナデ	ナデ	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	黒色針状粒ごくわずかに含む	

## 第Ⅲ章　まとめ

本遺跡の調査では縄文時代早期から古墳時代にかけて多くの遺構・遺物の成果が得られた。しかしながら担当者の力不足で十分な調査が出来たとはいえない。最後に各時代の成果や特に注目すべき点などを記載しまとめにかえたい。

### 1. 旧石器時代について

E 4 区 V 層下部より他の早期の石器に混じって旧石器とみられる頁岩製のスクレーパーが見つかっている。現在のところ旧石器とみられる遺物は、町内からは中迫地下式横穴墓 1 号の豊坑埋土中から石材に頁岩を用いた剥片が出土しているだけである。今後の類例の増加を待ち結論づけたい。

### 2. 縄文時代について

#### ・集石遺構について

集石遺構については、全調査区において合計 7 基検出されている。形態的には掘り込みを持ち底石も持つタイプと掘り込みを持つが底石は持たないタイプとに大別できた。なかでもすり鉢状の深い掘り込みを持ち、一般的な集石遺構に比べ大型で、すばまたった底部に大型の底石を持つタイプは清武町須田木遺跡にて検出されているものに似ており注目される。また、調査区内においては図面化していないが散礫が集中した場所が数箇所検出されている。

#### ・炉穴について

調査期間の終了間際の検出でしっかりととした調査ができなかった。上部の埋土については、まわりの土との境目がほとんど変わらず、検出がむずかしいものとなった。周辺にはもっと多くの炉穴が存在した可能性がある。

#### ・落とし穴について

上位が削平されていたため、検出面がはっきり判明していない面もあり、縄文時代遺構として取り扱っているが疑問も残る。今後の周辺地域での類例等との比較により結論づけたい。

#### ・縄文時代草創期の土器について

綾町内では、初の出土となる爪形文が発見された。早期の遺物が集中した場所とは若干離れた北側の地点に出土している。胎土がほぼ同じである無文の土器も近くに集中して出土しており同一固体と考えられる。他の縄文時代早期の土器などよりも若干下層の第 V 層より 10cm ほど上で出土しており、確認は得られないが層位的な時期差が確認できたといえる。

#### ・縄文時代早期の土器について

押型文を中心に、貝殻条痕文や貝殻刺突文などが出土した。特に押型文については、さまざまなバリ

エーションのものが出土している。中でも山形押型文と貝殻条痕との併用の例は、あまり他地域では見られないようであるため今後の研究により明らかにしていきたい。

#### ・石器について

石材は柔ノ木津留黒曜石を中心に、チャート・無班晶安山岩・玉髓・流紋岩などが使用されていた。V層まで掘り下げをおこなった調査区西側については、非常に多くの黒曜石がみつかった。全体的なイメージとして黒曜石の剥片が多く出土している。また、I 7区には石鏃を加工するときに出たと思われる非常に小さな剥片が集中するエリアがみられ、未製品の石鏃も若干出土していることから、石鏃加工跡の存在も考えられる。水晶の製品については、同時期のものとして藏座村遺跡にも水晶の石核が出土している。水晶は付近では採集されないので、やはり他地域からの流入品と考えてよいだろう。また、用途不明石器については、宮崎市田野町内の縄文時代の各遺跡から出土している「鉄岩石」とよばれる石器に非常に形態が似ておりその関連性も注目される。

### 3. 古墳時代について

#### ・住居跡について

3基の住居跡が検出されている。柱穴については確認できたものと出来なかったものがある。アカホヤブロックを多く含んだ土で貼り床がなされていた。出土遺物については、ほとんどが床面から浮いた状態のものでさらに破片が多数を占めているので、詳しい時期を推定することが出来ないが、タタキ目を持つ甕や、小型丸底壺などの出土が時期判断のひとつの目安となるだろう。また、2号住居から出土しているじゃもん岩製のそら豆色をした装飾品は、県内では類例として熊野原B遺跡土坑中に出土している。

最後に、数多くの成果が得られたのにもかかわらず、筆者の能力不足により遺構及び遺物の詳細な検討が十分にできなかった点をお詫びするとともに、調査から報告書作成までご指導・ご協力をいただいた方々に末筆ながらお礼申し上げたい。

### 【引用参考文献】

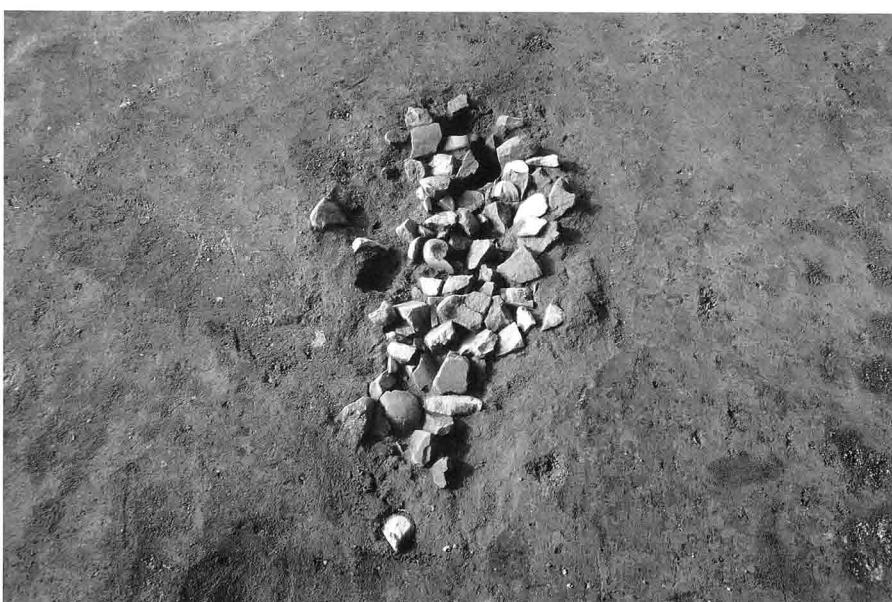
- 清武町教育委員会 2004 「須田木遺跡」 清武町埋蔵文化財調査報告書第12集  
田野町教育委員会 2004 「黒草第2遺跡」 田野町文化財調査報告書第49集  
宮崎県教育庁文化課（編） 1996 「中迫地下式横穴墓群」（綾町教育委員会）  
宮崎県埋蔵文化財センター 2003 「藏座村遺跡」 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第53集



図版2  
小平谷第1遺跡全景（上空から）



図版3  
調査地近景



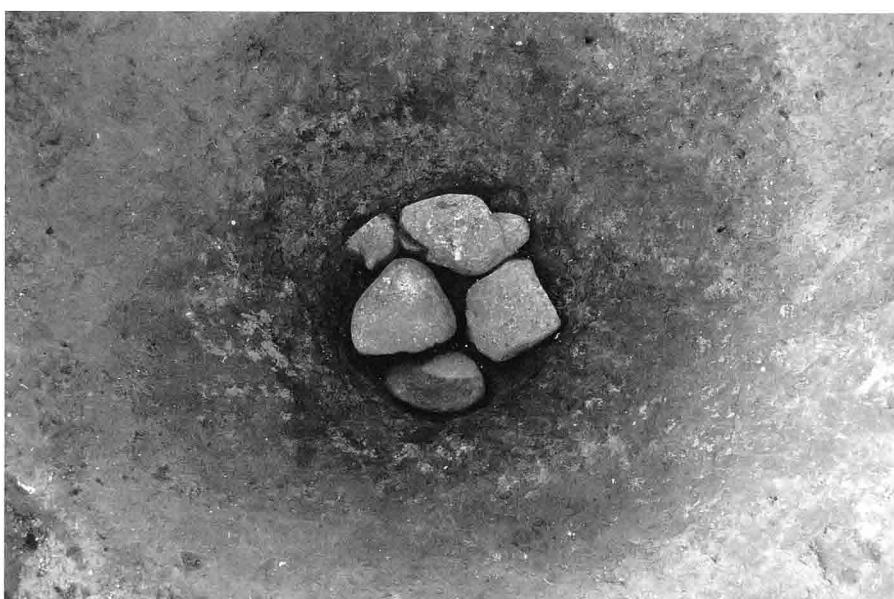
図版4  
1号集石遺構



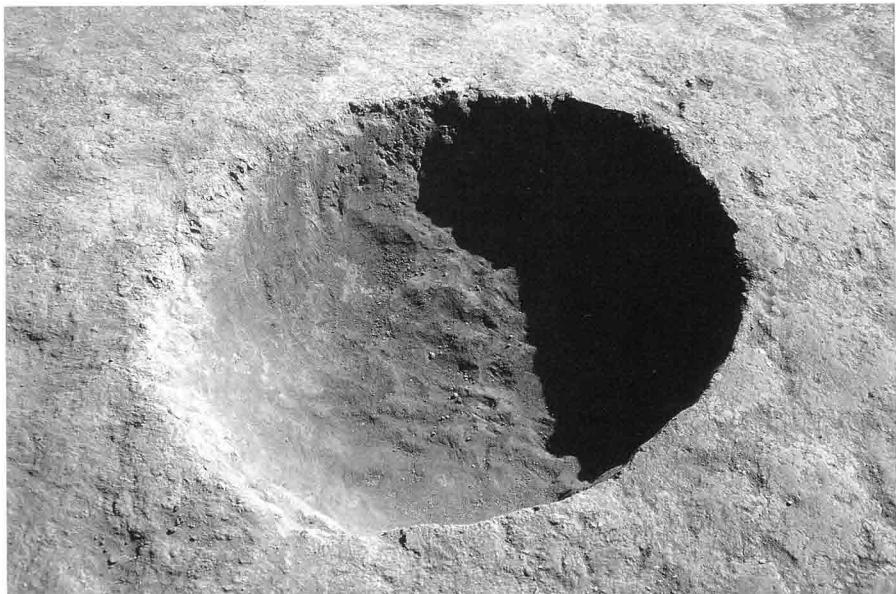
図版5  
2号集石遺構



図版6  
7号集石遺構



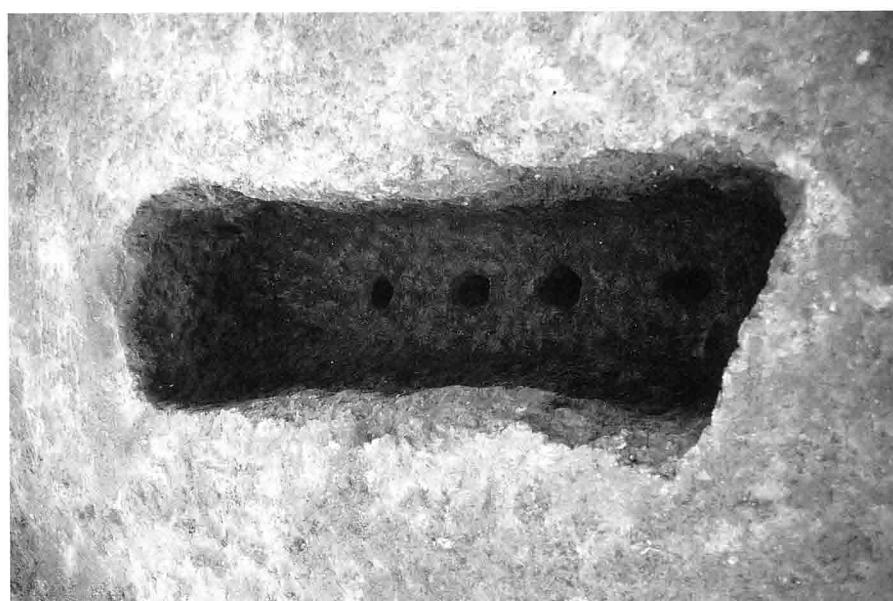
図版7  
7号集石遺構底石



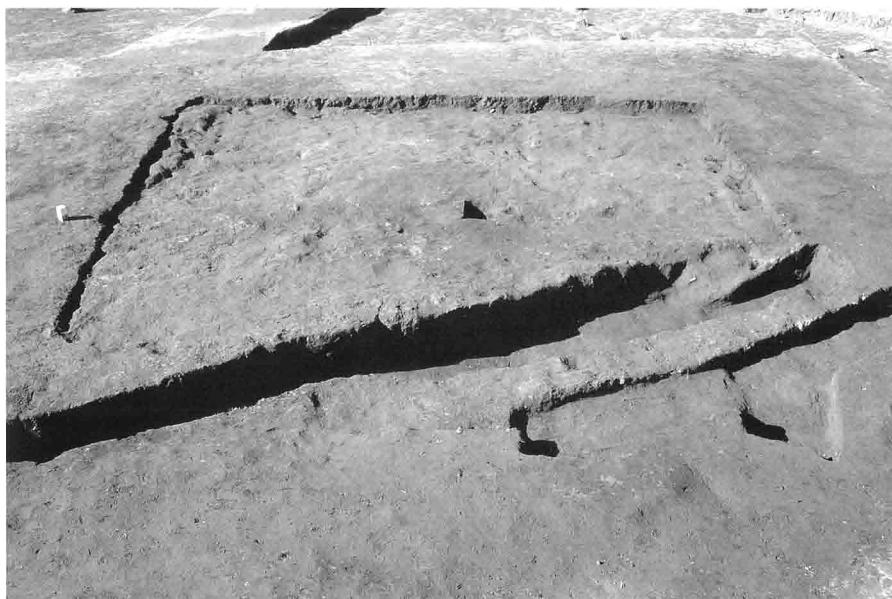
図版8  
土坑完掘状況



図版9  
炉穴完掘状況



図版10  
落とし穴状遺構完掘状況



図版 11  
2号堅穴住居跡完掘状況



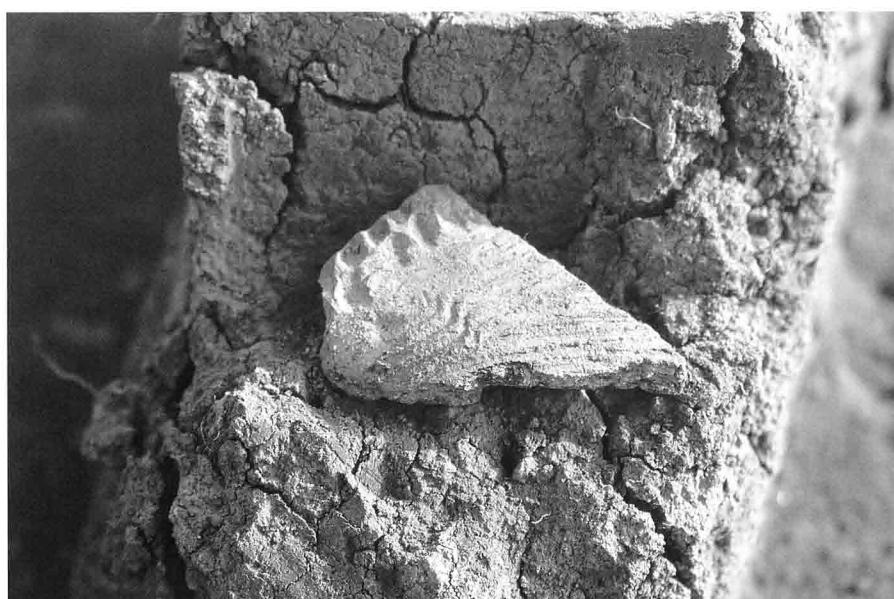
図版 12  
3号堅穴住居跡完掘状況



図版 13  
2号堅穴住居跡出土装飾品



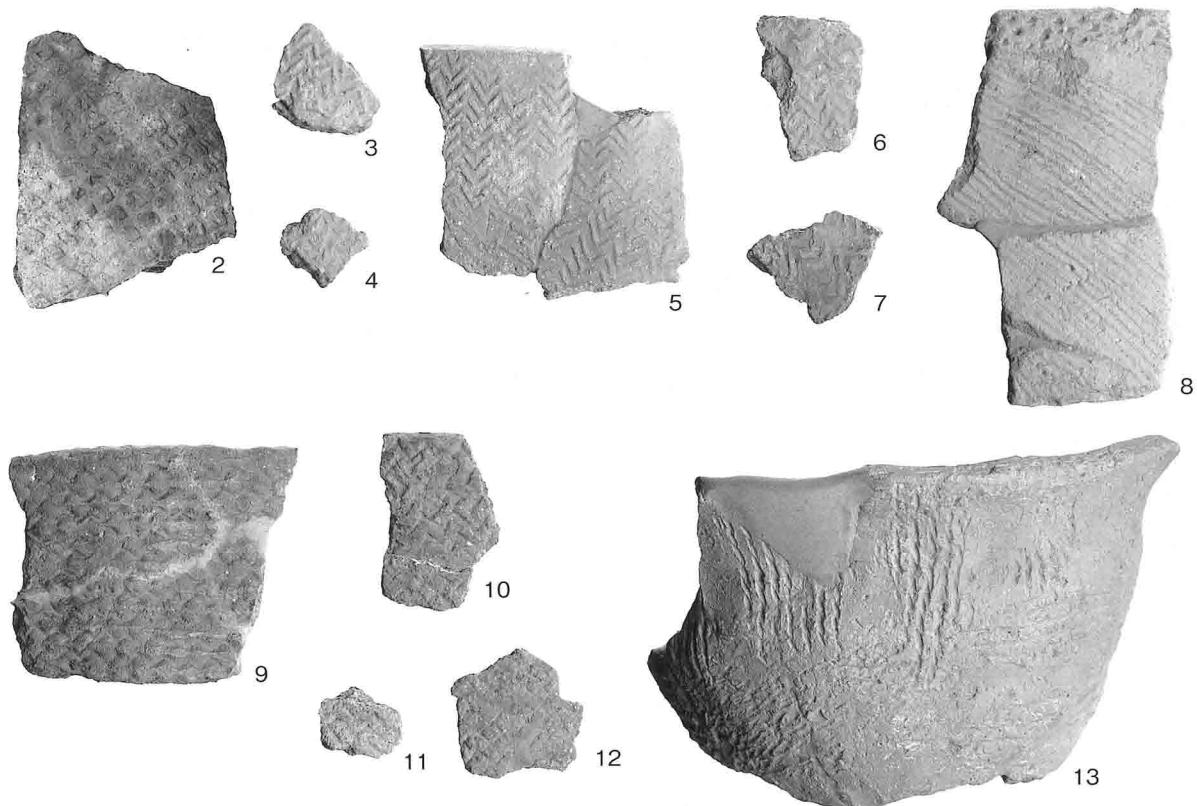
図版 14  
土器出土状況（炉穴）



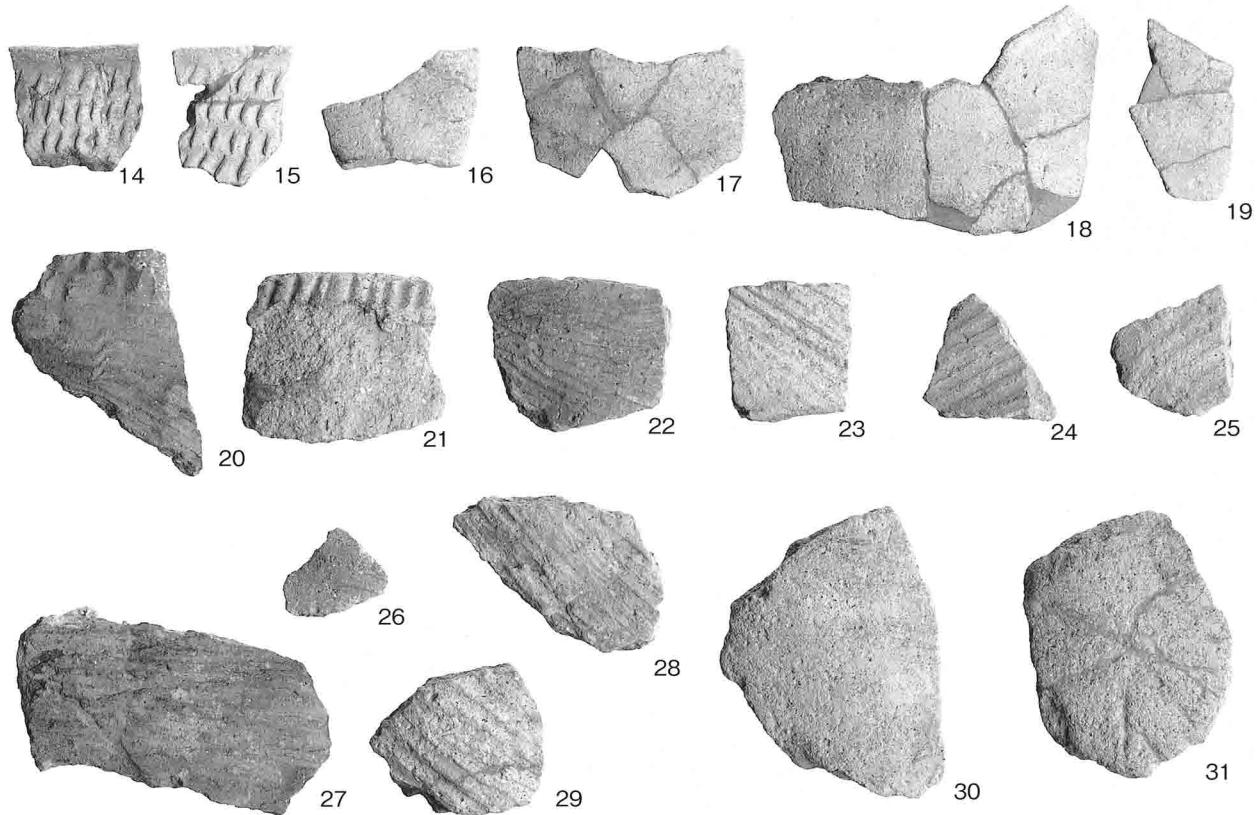
図版 15  
土器出土状況（包含層）



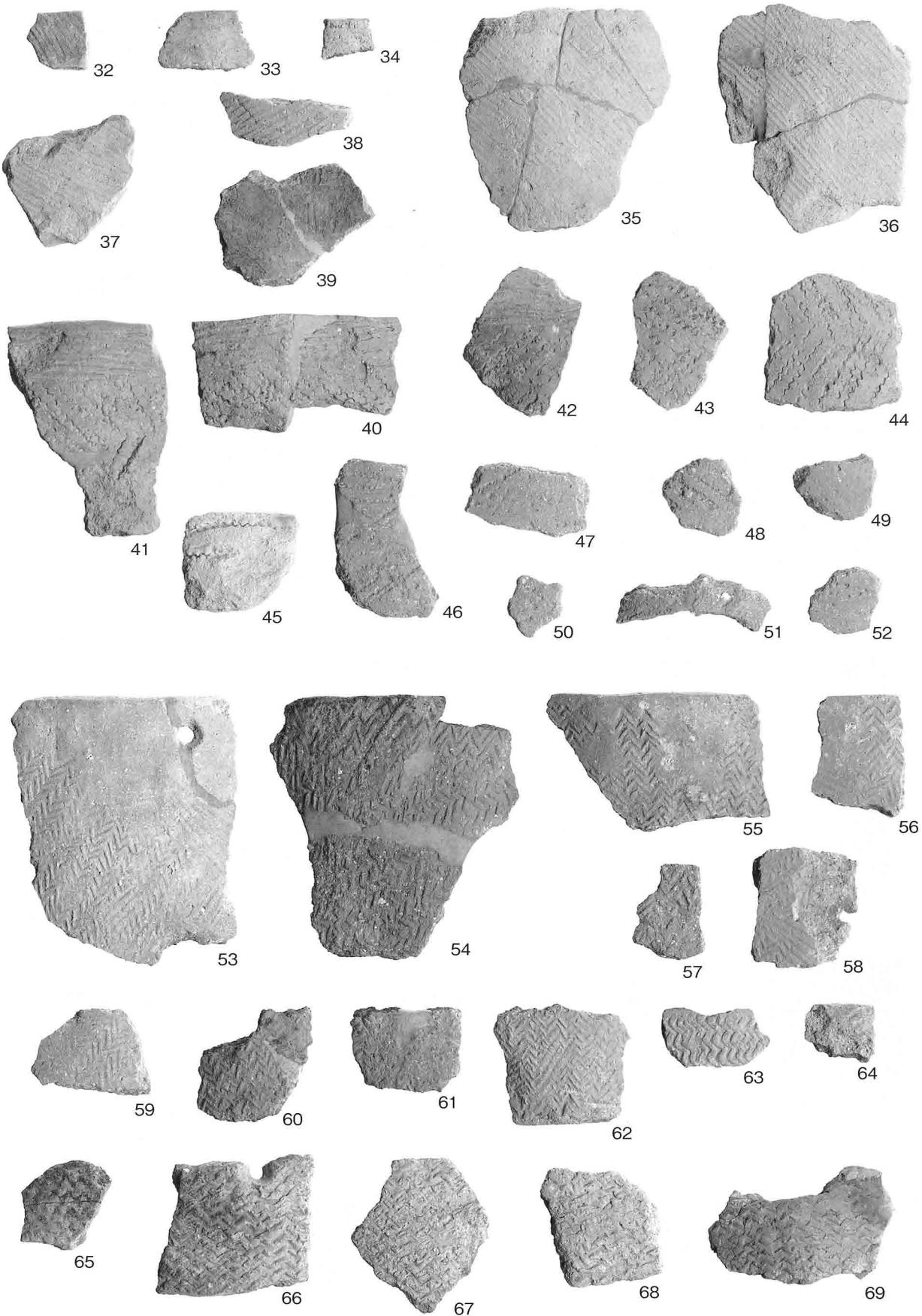
図版 16  
水晶製品出土状況（包含層）



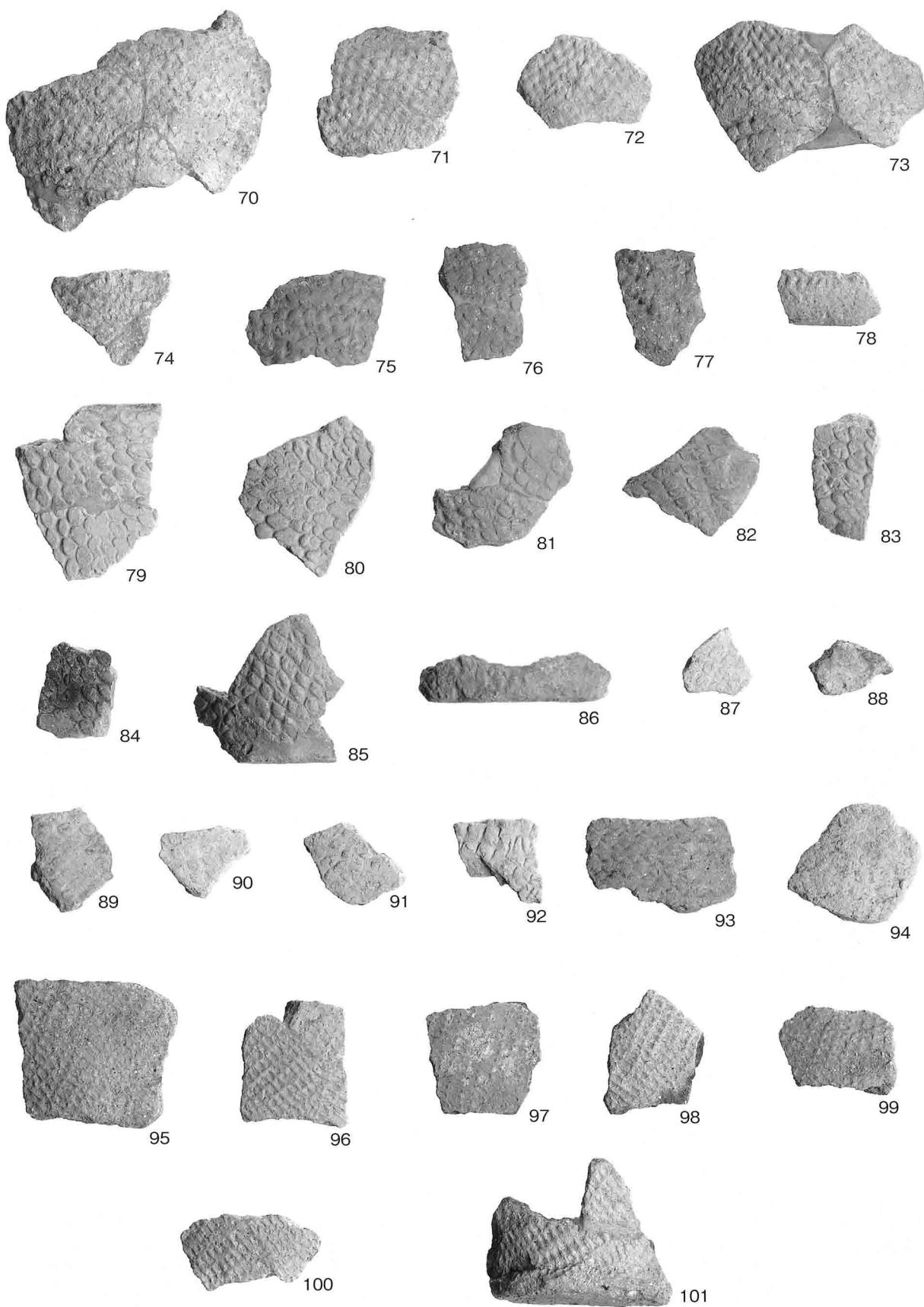
図版 17 繩文時代遺構内出土土器



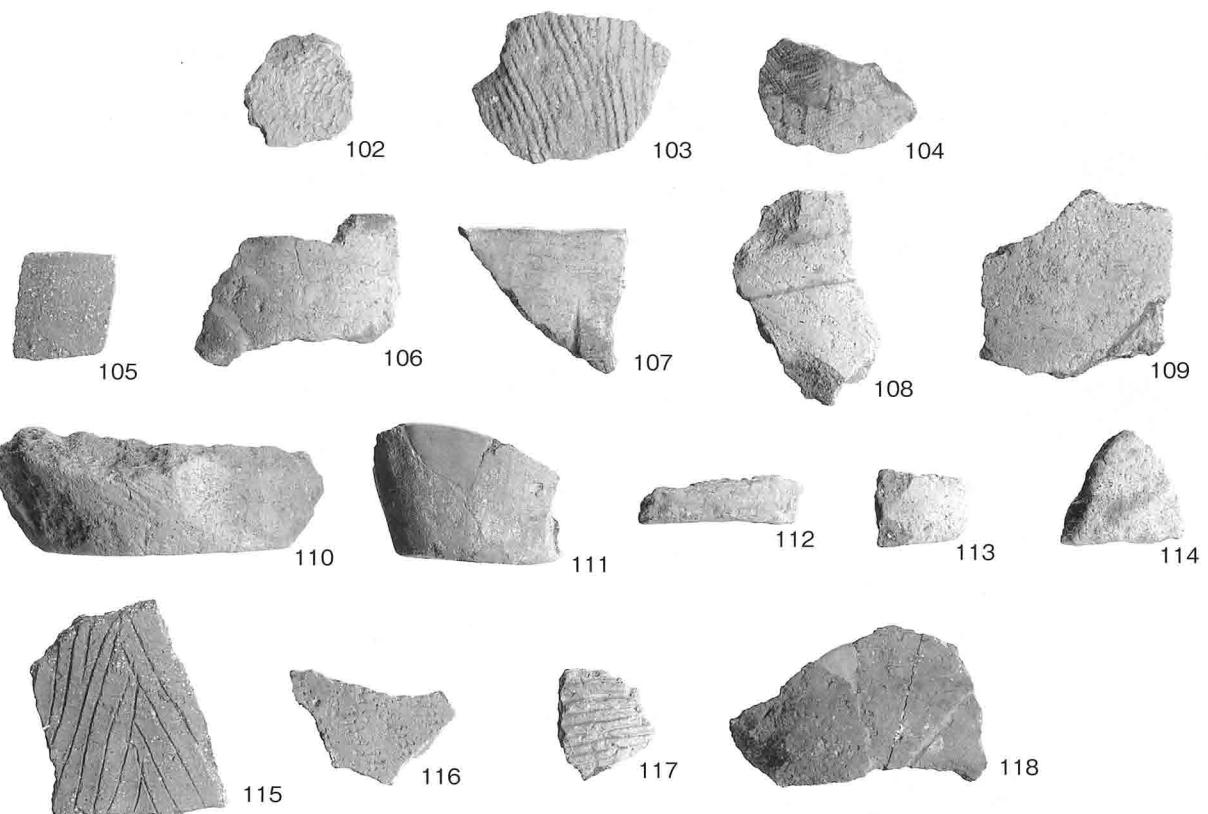
図版 18 繩文時代遺物包含層出土土器①



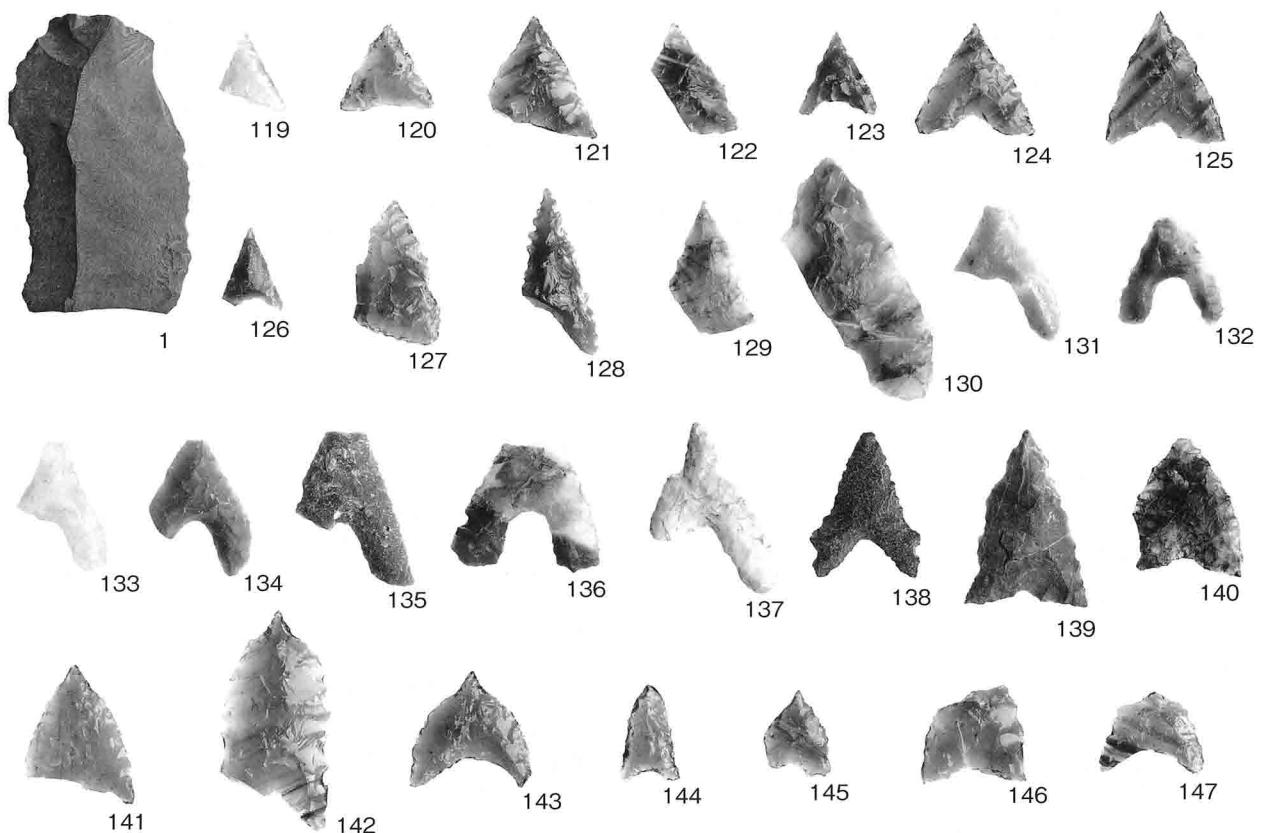
図版 19 繩文時代遺物包含層出土土器②



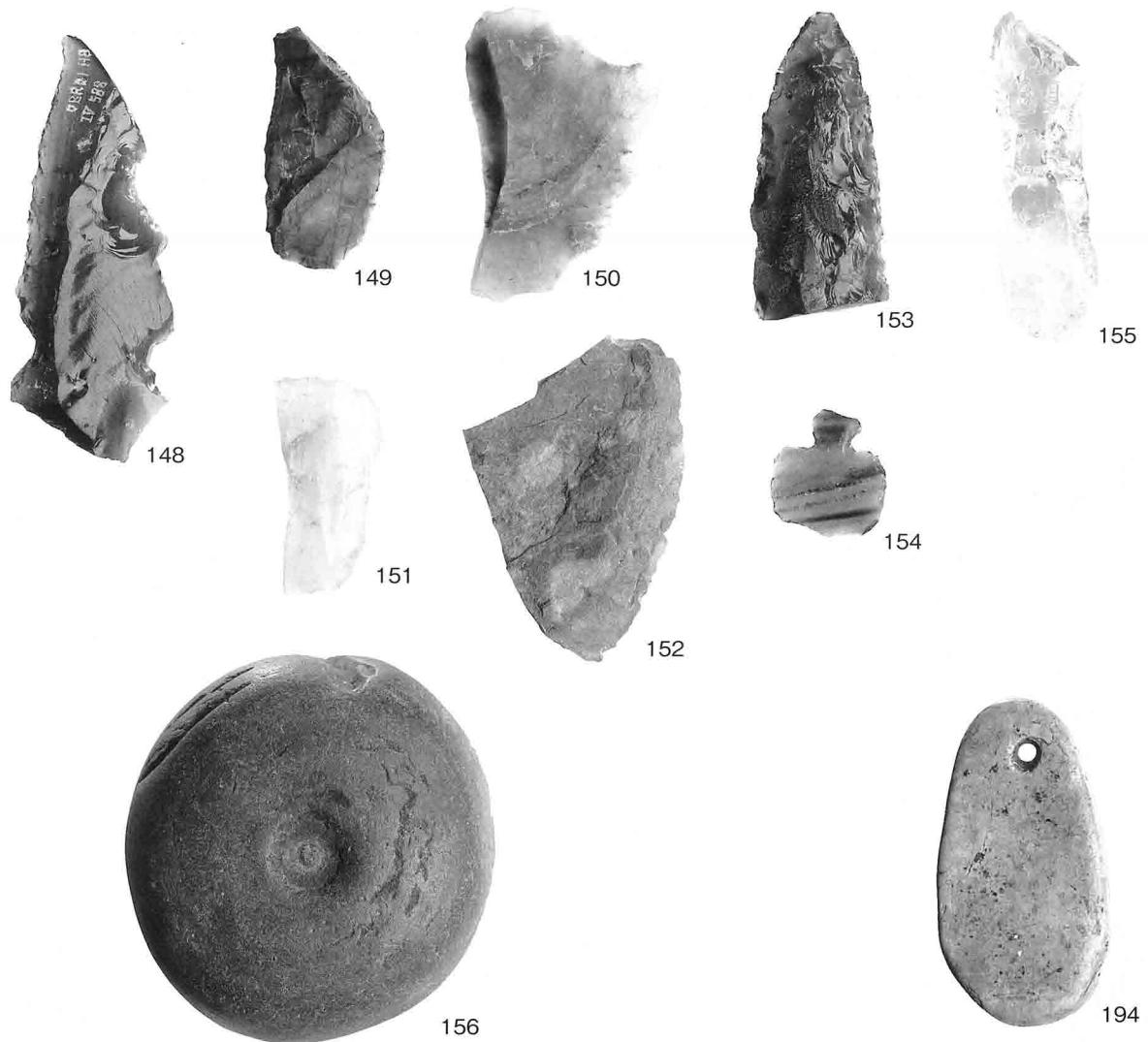
図版 20 繩文時代遺物包含層出土土器③



図版 21 縄文時代遺物包含層出土土器④

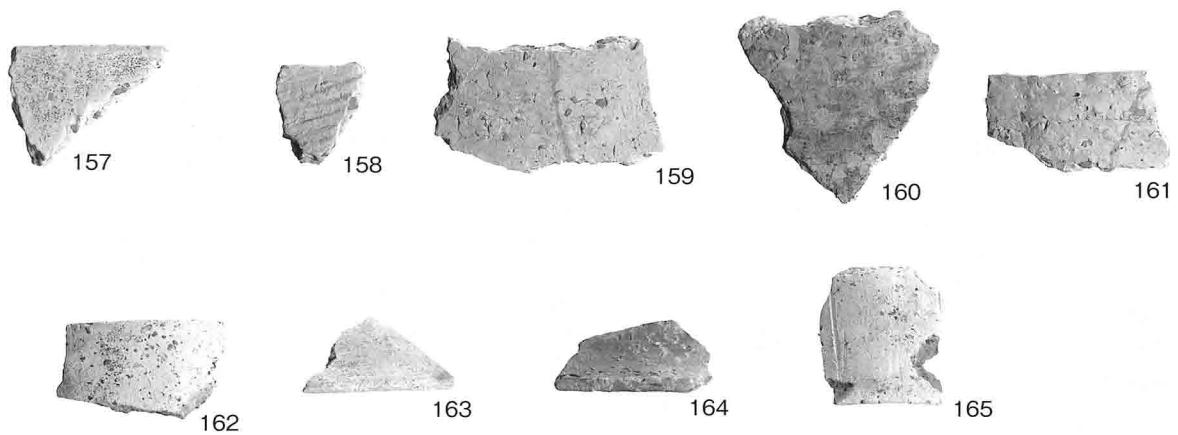


図版 22 縄文時代遺物包含層出土石器①

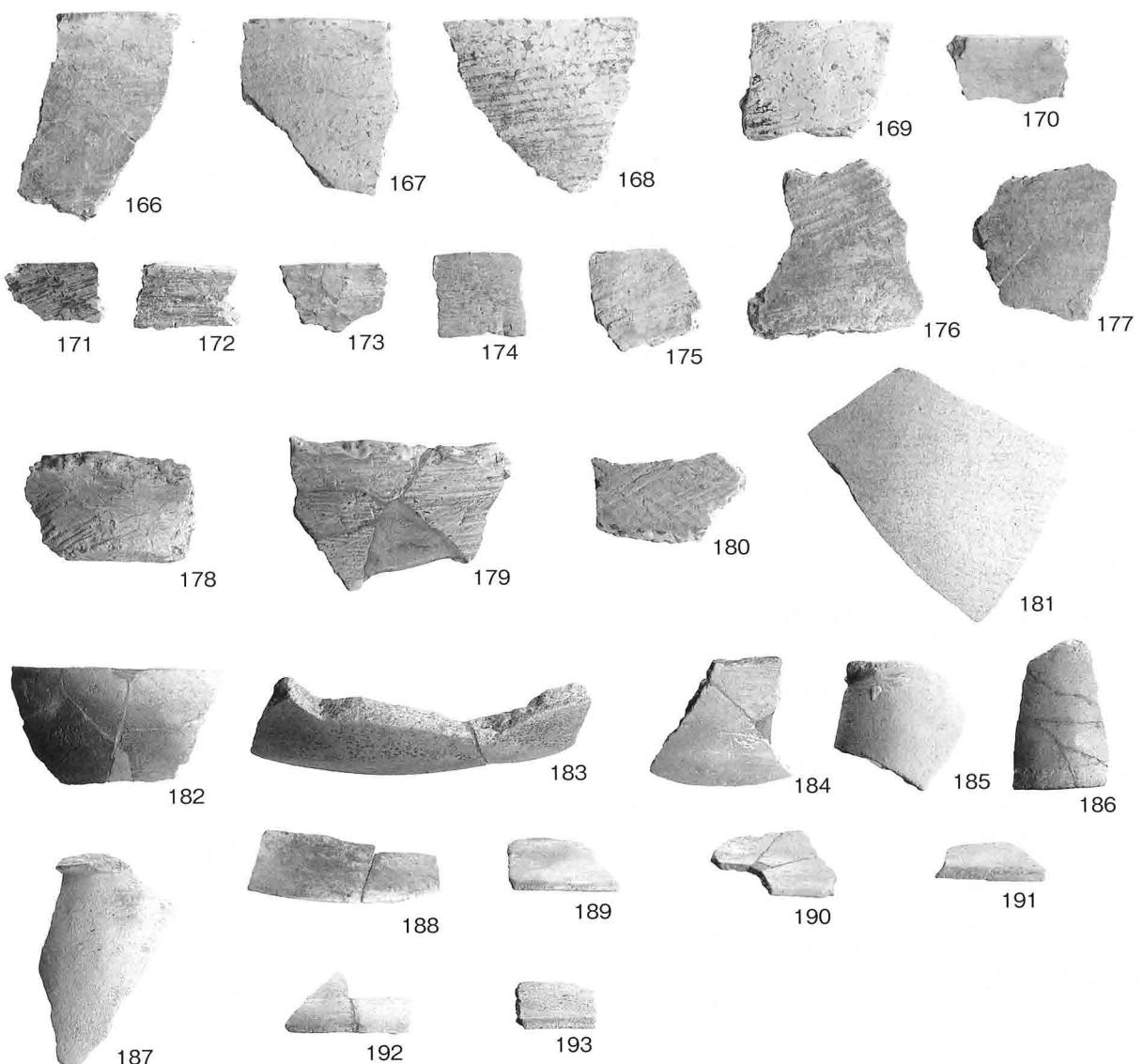


図版 23 繩文時代遺物包含層出土石器②

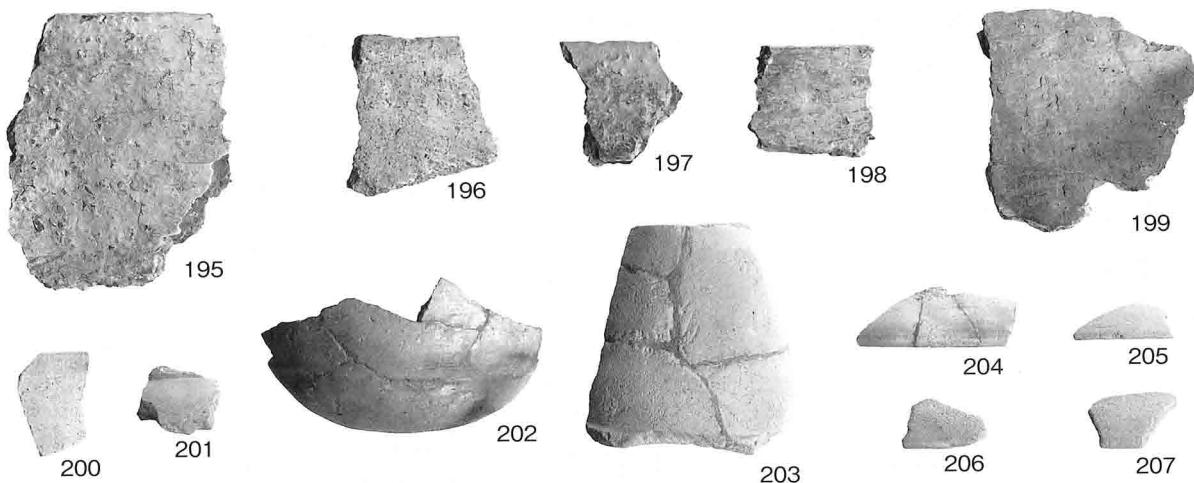
図版 24 住居跡出土石器



図版 25 1号竪穴住居跡出土土器



図版 26 2号竪穴住居跡出土土器



図版 27 3号竪穴住居跡出土土器

## 調査抄録

フリガナ	オビラダニダイイチセキ					
書名	小平谷第1遺跡					
副書名	県営中山間総合整備事業古屋・二反野地区（その2）にかかる埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ名	綾町埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第12集					
編集者名	井上 隆広					
発行機関	綾町教育委員会					
所在地	〒880-1303 宮崎県東諸県郡綾町大字南俣 546-1					
発行年月日	2007年11月28日					
所収遺跡名	所在地	緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
小平谷第1遺跡	宮崎県東諸県郡綾町 大字南俣字萩ノ窪	31° 59' 01"	131° 15' 03"	H17.8.19 ～ H17.12.22	2,790m <sup>2</sup>	農業 関連
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地 集落等	縄文時代草創期 縄文時代早期	集石7、炉穴1 土坑1、落とし穴1		土器（爪形文、押型文、前平式、下剥峯式など）、石鏸、スクレーパー、水晶、用途不明石器		
	古墳時代	住居跡3		土器 蛇紋岩製装飾品		

綾町埋蔵文化財調査報告書第12集  
小平谷第1遺跡

県営中山間総合整備事業古屋・二反野地区(その2)にかかる  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2007年11月

編集・発行 綾町教育委員会  
〒880-1303  
宮崎県東諸県郡綾町大字南俣546-1  
TEL 0985-77-1183

印 刷 小柳印刷株式会社  
〒880-0803  
宮崎県宮崎市旭一丁目6-25  
TEL 0985-24-4155 FAX 0985-24-1512

